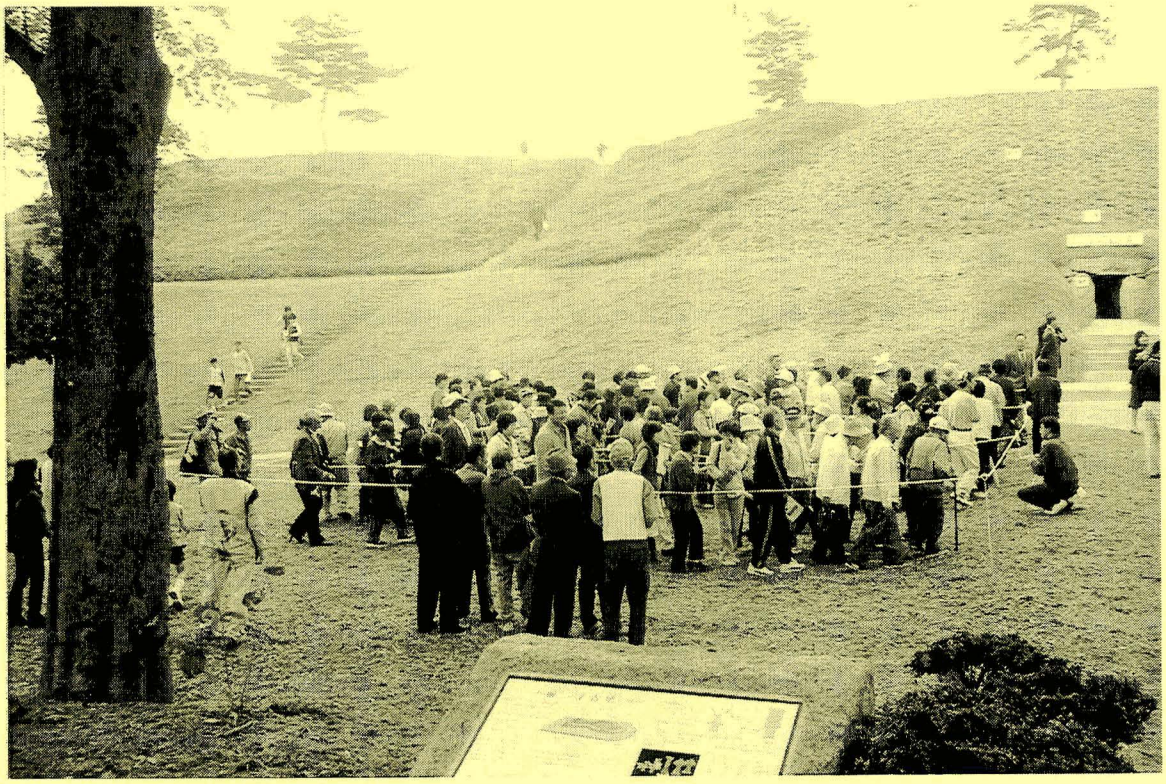
年　報　第36集

平成17年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

序

文化財保護法の一部を改正する法律が成立し、平成 17 年4月1日から施行されています。今回の改正は、人と自然の関わりの中で作り出されてきた文化的景観及び生活や生産に関する用具、用品等の製作技術など地域において伝承されてきた民俗技術を新たに保護の対象とするとともに、近代の文化財等を保護するため建造物以外の有形の文化財にも登録制度を拡充するものです。ここには、人々の生活の中で生まれ、心のよりどころとなる文化財を、活用を図りながら保存していこうとする意図が窺えます。前橋市としてもこれらの動きに歩調を合わせ、近代の有形文化財の保存・活用や市内の文化的景観等の保存を視野に入れながら、文化財保護行政を推進していきたいと思います。

さて、前橋市内の指定文化財は、平成18年4月18日付で新たに市重要無形民俗文化財に指定した「立石諏訪神社の獅子舞」を加え、国・県・市合わせて296件、さらに国登録有形文化財9件を数え、先人の歩んできた足跡を確かな形で見ることができます。これらを残し、後世に継承していくとともに、地域の人々と共有し、有効に活用していくことが今求められています。

本市教育委員会では、市内にある文化財を見学する文化財探訪、整備された史跡等を活用した古代生活体験学習、各学校へ出向いての文化財に関わる出張授業、大室古墳群の史跡整備が完成したことを記念した公開行事等を実施いたしました。いずれも好評を博し、多くの参加者や見学者がみられ、文化財に親しむよい機会になったのではないかと考えます。

今後も、市民の皆様とともに、文化財保護を通して市民文化の醸成に努めていく所存でありますので、一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

本書は、埋蔵文化財発掘調査の結果を含めた文化財保護の事業概要をまとめたものです。この報告書が皆様方の文化財に対する理解を深め、より一層の保存・活用に向けての契機となれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

平成18年9月

前橋市教育委員会

教育長　中澤　充裕

目　　次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

　1　長善寺文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

　2　青梨子町文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

　3　立石諏訪神社の獅子舞調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ　新指定文化財・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　1　立石諏訪神社の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅲ　文化財保護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　1　保護管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　2　整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

　3　普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

　4　埋蔵文化財発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

　5　市内遺跡発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

　6　遺跡台帳整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

　7　埋蔵文化財資料整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

　8　山王廃寺等保存整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

あとがき

Ⅰ　文化財調査委員による調査

1　長善寺文化財調査

長善寺は、前橋市堀越町1,240に所在する曹洞宗の寺院で、山号を豊国山と号し、釈迦牟尼仏を本尊として祀っている。当寺院の文化財調査を平成17年9月14日に実施した。調査の概要は以下のとおりである。

NO.	種別（名称）	材　質	法量（cm）	備　　考
1	本堂棟札	杉材	長さ　50.2 幅　　11.0 厚さ　　0.7	享保17年
2	釈迦牟尼仏（釈迦如来坐像）	木製	像高　32.0 肩幅　16.5 膝幅　25.0	明和年間　本尊　寄木造 禅定印
3	文殊菩薩坐像	木製	像高　28.5 肩幅　11.5 膝幅　19.5	明和年間　本尊の脇侍　寄木造 騎獅像 左手に経巻　右手に剣
4	普賢菩薩坐像	木製	像高　29.0 肩幅　12.0 膝幅　20.5	明和年間　本尊の脇侍　寄木造 騎象像
5	十一面観音菩薩坐像	木製	光背高 46.0 光背幅 33.5 像高　30.0 肩幅　13.0 膝幅　18.5	室町時代 光背に「文正元年四月吉日」の銘 開山当時の本尊といわれている
6	地蔵菩薩立像	木製	像高　73.0 幅　　18.0	江戸末期　寄木造 左手に宝珠　右手に錫杖　光背滅失
7	豊国山山号軸	紙	縦　　25.5 横　　44.5	豊臣秀頼公真筆（秀頼7歳の時の書） といわれている　軸装
8	涅槃絵軸	絹本	縦　　74.5 横　　146.2	中世末～近世初頭 朝鮮伝来といわれている　軸装
9	徳川忠長書状	紙	縦　　43.0 横　　32.0	寛永7～10年（忠長が高崎城に幽閉されている期間のもの）　軸装
10	朝鮮伝来小皿	白磁	口径　14.0 底径　　9.5 器高　　1.5	17世紀（李朝期） 湖岸遊鴨図 箱書「秘蔵　當山三世和尚傳来　朝鮮皿拾枚容」
11	柄鏡	青銅製	径　　13.0 柄長　　9.5 柄幅　　2.5 厚さ　　0.3	江戸中期 藤原光重作
12	常香盤（香時計）	桐材	総高　80.0 幅　　34.5	四柱造　擬宝珠あり 引出底部に「明和四年三月日」の銘
13	大胡太郎の墓石	石製	総高 163.0 幅　　60.0	南北朝時代　異形多宝塔（赤城塔の一種）　市指定史跡 「貞和三年三月廿二日」の銘
14	輪廻塔	石製	総高 201.0 幅　　63.0	室町時代 「延徳四年仲呂三日」の銘

これらの他に、中世の五輪塔2基、宝篋印塔2基を確認した。

NO. 1 本堂棟札

壬子年
享保十七
東上州勢多郡當村
棟梁 藤原家次
横沢傳右衛門

奉納 棟札 工数合数百拾人 謹言

同 藤原家次建之
十月吉日
同国 新田郡西鹿田村
新井与右衛門

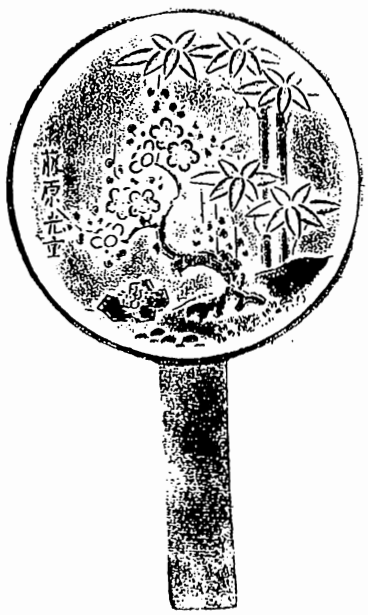
NO. 9 徳川忠長書状

左様御座候へハ我等儀御前へ
御目見へおも仕候様ニ御両人
昨日 土佐守 罷出 後両人御かき
頼存候
扨々遍令拝見候思召より候
とおり忝存候此上ハ先
いかやう尓も御両人次第ニ可
仕候い春れも懸御目可申年年

三月廿日 忠長（花押）

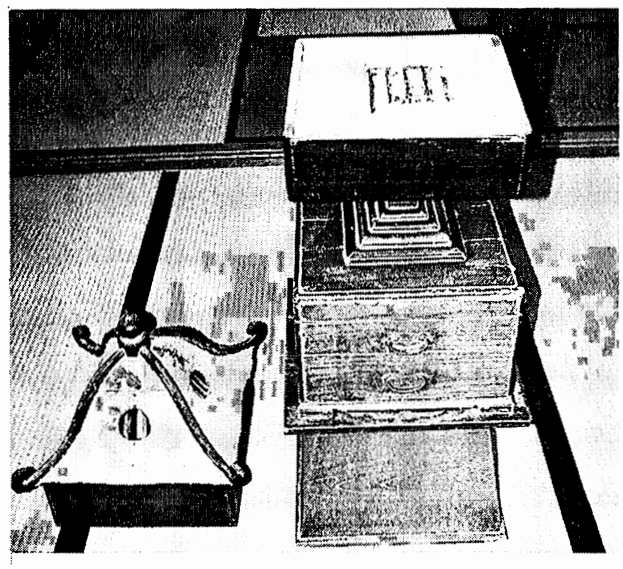
土井大炊頭殿

NO. 11 柄鏡



NO. 12 常香盤（香時計）

鍵型に香を燃やすことにより、長時間香を焚き続けることができるよう工夫した群馬県内では珍しい常香盤である。



2　青梨子町文化財調査

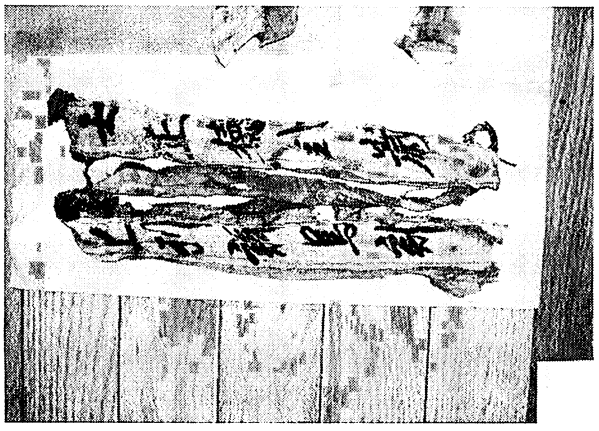
地元青梨子町前原自治会からの依頼を受け、平成 17 年 9 月 26 日に、青梨子町の文化財、特に養蚕・製糸業で功績の大きかった人物の墓石の現地調査を行った。具体的には、それまでの座繰器に改良を加えたいわゆる「上州座繰」の考案者である高橋邦七、萬右衛門親子の墓石、天然の気候を利用した「暖爽育」という飼育法を編み出し優れた繭を作った養蚕指導者である松下政右衛門の墓石、焚火育という飼育法を広めた養蚕指導者である井草太郎右衛門の墓石の調査を行った。後世に残すべき「糸の町」についての貴重な基礎的資料を得ることができた。

松下政右衛門の墓

3　立石諏訪神社の獅子舞調査

平成 17 年 10 月 15 日に、総社町植野の立石諏訪神社の獅子舞についての調査を行った。保存会により保存されている獅子頭をはじめとした道具・衣装等は以下のとおりである。

NO.	摘　要	数量	材質	時　代	備　考
1	獅子頭	3点	桐	伝承品	顎紐の中から壬正徳弐歳の墨書
2	太鼓	3点	桐	伝承品	
3	バチ棒	3組	木	伝承品	
4	獅子衣裳	6点	綿	昭和初期以前	
5	手甲・脚半	8組	綿	昭和初期以前	
6	カンカチ棒	2組	鉄	伝承品	
7	カンカチ衣裳	3点	綿	明治初期～昭和初期	2点は綿入り（明治期のもの）
8	面	3点	桐	伝承品	
9	笛方用裃	4点	麻	江戸末期～	
10	幟旗	3点	綿	昭和初期以前	
11	花傘	2点	竹	明治 24 年	祭礼入用帳に記述有り
12	角張提灯	2点	ひご	明治 24 年	祭礼入用帳に記述有り
13	世話人提灯	7点	ひご	伝承品	
14	氏子総代用杖	4本	竹	伝承品	
15	長持（用具入れ）	4本	竹	伝承品	蓋に宝暦六年・宝暦八寅年の墨書



顎紐の中から発見された布の墨書（壬正徳弐歳）

長持の墨書（宝暦六年・宝暦八寅年）

Ⅱ　新指定文化財

立石諏訪神社の獅子舞

区　　分　　前橋市指定重要無形民俗文化財
指定年月日　　平成18年4月18日
所 在 地　　前橋市総社町植野464他　諏訪神社
所 有 者　　諏訪神社立石獅子舞保存会
管 理 者　　諏訪神社立石獅子舞保存会
概　　要

立石諏訪神社の獅子舞は、五穀豊穣、無病息災、家内安全を祈願し、町の鎮守である総社町植野の諏訪神社に奉納するもので、神社の祭礼と共に行われている。

獅子舞組の組織は、以前は立石を北上・北下・南上・南下組の４組に分け、年ごとに来る順番によって担当してきたが、現在は町内に新たな団地ができたため、この地区を北組として組織に加え、５組体制で行っている。

この獅子は、一人立ちであり、前獅子、中獅子、後獅子、それにカンカチがつき４人で舞う。舞子には、以前はこの地に生まれた長男が選ばれたが、少子化が進む現在、このような選出が困難になり、小学生の男子３年生以上の希望者から選出されるようになった。

立石諏訪神社の獅子舞は観客を意識しない奉納獅子であり、呪詛的な動きの見られる勇壮な稚児獅子である。獅子舞は、神社の境内から振り出される。拝殿前で、神前の舞を中心に一通りの舞が力強く舞われる。時には静かに、時には激しく舞い、自然環境に耐える苦しさ、また一同が語り合い楽しさを表現する様が随所に見られる。その後、獅子舞は神社を出発し、ムラ境で辻舞を行う。腰に五色の幣束をさし、笛に合わせて小太鼓を打ち鳴らし、獅子頭を大きく振り、大地を力強く踏みしめるしぐさが繰り返される。これは悪魔を封じ込め、疫病を寄せ付けまいと激しく舞う姿であり、呪詛的な動作を表現したものである。辻舞は、現在は町内の５カ所で行われる。最後に神社へ戻り、もう一度すべての舞いが繰り返される。

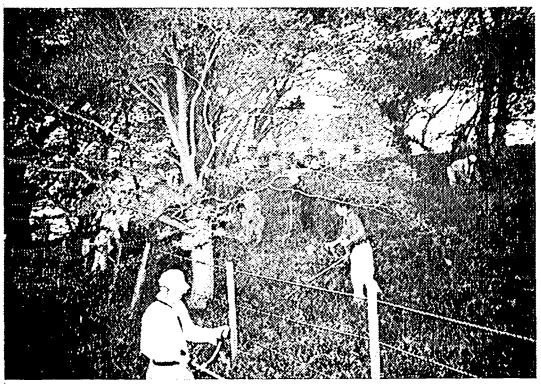
この獅子舞の起源ははっきりしないが、獅子舞の道具を入れておく長持の蓋に「宝暦六年」「宝暦八寅年」の墨書がある。また、獅子頭の顎紐を修理した際、その内部から「壬正徳弐歳」と書かれた布切れが発見された。これらのことから、1700年代のはじめには存在したのではないかと考えられる。

Ⅲ　文化財保護事業

1　保護管理運営事業

（1）国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の大武敏次氏と堀口和四郎氏を国有文化財監視人として依頼し、日常管理を実施した。また、除草・清掃作業等については、（総社）二子山古墳を地元の総社地区史跡愛存会が、（天川）二子山古墳を前橋市連合青年団が実施した。



総社二子山古墳清掃の様子

（2）国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が 16 件、県指定文化財が 54 件、市指定文化財が 226 件あり、合計 296 件の指定文化財がある。

指定区分	国指定	県指定	市指定	合　計
重要文化財	4	39	140	183
史　　跡	11	11	52	74
無形文化財	0	0	11	11
有形民俗文化財	0	0	6	6
無形民俗文化財	0	2	6	8
天然記念物	1	2	10	13
名　　勝	0	0	1	1
合　　計	16	54	226	296
登録有形文化財	9	—	—	9
重要美術品	6	—	—	6

※平成 18 年 4 月 18 日付新指定文化財 1 件を含む。

17 年度は、大胡地区、宮城地区、粕川地区に所在する文化財 128 件の確認調査、管理状況調査、標柱・説明板の設置状況及び状態の確認調査を実施した。

なお、平成 11 年 4 月 20 日に指定された市指定天然記念物「小相木町大徳寺のクロマツ」が、平成 17 年 8 月 25 に関東地方を襲った台風 11 号の影響を受け、根本付近から折れ、倒れた。本物件は、滅失により、平成 17 年 10 月 25 日付で指定が解除された。

①　史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に除草業務並びに樹木処理業務を委託し、史跡等の環境美化に努めた。

作業を実施した箇所は、次の表の通りである。

除草業務一覧表

	史　跡　名	区 分	所 在 地	除草延面積
1	亀塚山古墳	市指定	山王町1-28-3	4,968㎡
2	金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	4,814㎡
3	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624㎡
4	車橋門跡	市指定	大手町2-5-3	750㎡
5	天神山古墳	県指定	広瀬町1-27-7	1,095㎡
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	30,000㎡
7	蛇穴山古墳	国指定	総社町総社1587-2	400㎡
8	宝塔山古墳	国指定	総社町総社1606	2,204㎡
9	女　堀	国指定	富田・東大室・二之宮・飯土井町他	60,386㎡
10	不二山古墳	市指定	文京町3-151-6	1,142㎡
11	荒砥冨士山古墳	県指定	西大室町813-2他	2,700㎡
12	大胡城跡	県指定	河原浜町660-1	25,396㎡
計				138,479㎡

樹木等処理業務一覧表

	史 跡 名	区 分	所 在 地	処理内容
1	宝塔山古墳	国指定	総社町総社1606	樹木伐採３本 枝おろし７本 ﾏﾂｸｲ１本伐採
2	女　堀	国指定	二之宮町	樹木伐採25本 枝おろし２本 竹林伐採３×50m
3	前二子古墳	国指定	西大室町2659他	樹木伐採１本
4	大胡城跡	県指定	河原浜町660-1	ﾏﾂｸｲ１本伐採 上部幹切断１本
5	八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	ﾏﾂｸｲ１本伐採
6	総社二子山古墳	国指定	総社町植野368	樹木伐採４本

② アメリカシロヒトリ・松くい虫の防除

市が直接管理する国指定史跡地６ヶ所の桜の木等に発生するアメリカシロヒトリの防除をするために、薬剤散布を下記のとおり実施した。

○実施日　　１回目：平成17年６月11日（土）
　　２回目：平成17年８月２日（火）
○使用薬剤　トレボン乳剤（DDVP75乳剤から変更）
○実施した史跡　総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・天川二子山古墳

※これまで散布を行ってきた前二子古墳及び中二子古墳については、近くに養蚕を行っている農家があることから散布が中止となった。

松くい虫の防除のための薬剤樹幹注入については、農政課により、下記のとおり実施した。

○実施日　　平成18年２月８日（水）
○実施した史跡　中二子古墳（14本の松に薬剤注入）

（３）文化財の保護

① 文化財パトロール

これまで、市内を６地区に分け実施してきたが、平成16年12月５日の合併に伴い３地区増やし、９地区として各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告され、指定文化財等を管理する上で必要な情報が得られた。

各地区の文化財保護指導員は、次の表の通りである。

地　区	氏　名	住　所
中　央	福島　守次	天川大島町
総社・清里	関口　淳七	総社町総社
東・元総社	中島　孝雄	石倉町
上川淵・下川淵	狩野　久夫	西善町
南橘・芳賀・桂萱	栗原　秀雄	荒牧町
城　南	岡野　毅	西大室町
大　胡	茂木　允視	堀越町
宮　城	東宮　惇允	苗ヶ島町
粕　川	宮崎　高志	粕川町膳

② 文化財防火査察

「第52回文化財防火デー」に因み、貴重な文化財を火災から守るため、前橋市消防本部及び㈱東京電力と協力して、次の文化財査察対象物を７班編成で、防火管理関係の立入り査察を行った。

○平成18年１月24日（火）

（５班西消防署４施設）上野総社神社本殿他　徳蔵寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一対　大徳寺総門・多宝塔　光巌寺薬医門・打敷・油単並びに幡

（１班中央消防署６施設）国認定重要美術品３幅・県指定重要文化財 12 幅　前橋藩松平家奉納装束一式　酒井重忠画像　八幡宮文書（一巻九通）　臨江閣本館・茶室・別館　典籍・前橋藩松平家記録（404 冊）他２件

（２班中央消防署６施設）神明宮の甲冑・奈良三彩　東福寺鰐口　松平藩主画像他一件　旧蚕業試験場事務棟　上泉郷蔵附上泉古文書　石造薬師三尊立像

○平成18年１月25日（水）

（６班南消防署８施設）旧関根家住宅　無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面観音立像　二宮赤城神社絵馬・梵鐘　納曽利面　産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地　慈照院千手観音坐像　円満寺薬師如来坐像　駒形午頭天王の獅子頭一対　旧アメリカンボード宣教師館

（７班南消防署３施設）日輪寺寛永の絵馬　十一面観世音像　前橋藩家老小河原左宮の甲冑附旗差物　鉄造阿弥陀如来坐造

○平成18年１月26日（木）

（３班東消防署６施設）旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台解座一対　五十山薬師如来・十二将　大胡神社算額　阿久沢家住宅　十一面観音木像他　歌舞伎舞台他

（４班東消防署８施設）狂歌合の額他　本殿内宮殿　近戸神社御輿他　三番叟かしら附付属古文書

※滝沢不動明王像の査察については、都合で中止となった。

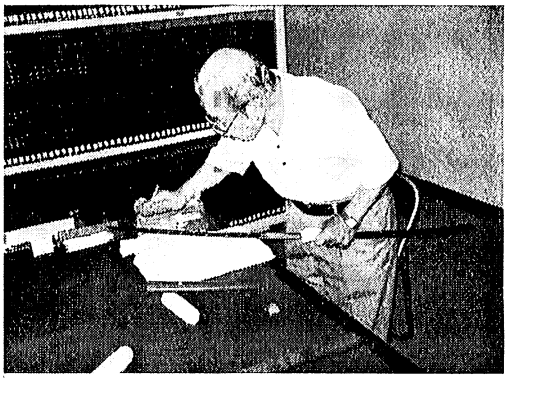
○消防演習

平成18年１月22日（日）
市指定重要文化財　大胡神社の算額
前橋市河原浜町638　大胡神社内

③ 刀剣の手入れ

本市が寄附受入した貴重な刀剣を良好な状態で保存するために、専門的な技術を有する業者に刀剣の手入れを委託した。手入れの実施時期と回数は、９月と３月の年２回であった。

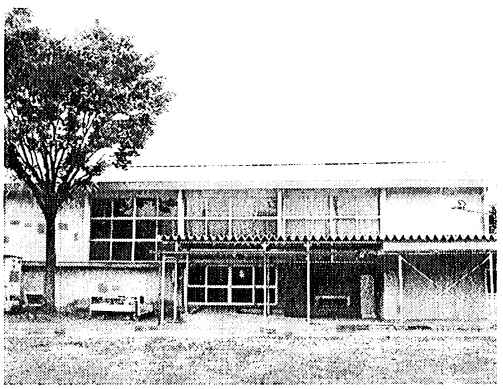
なお、刀剣は、温度及び湿度が一定に保たれている施設で保管している。



刀剣手入れの様子

④　三俣収蔵庫(旧養護学校体育館)屋根改修工事

市管財課が所管していた旧養護学校体育館について、平成17年度から文化財保護課の所管となり、収蔵庫として利用することとなった。しかし、体育館屋根全体の錆、樋の腐蝕、屋根軒下ボード及び体育館内部の天井ボードに破損箇所があったため、今後収蔵庫として活用できるように体育館屋根の全面塗装及び腐蝕・破損箇所の改修工事を実施した。



屋根改修後の三俣収蔵庫

（4）前橋市蚕糸記念館の管理・活用

明治 45 年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として当時の岩神町に建設された建物で、その後製造所は、国の研究機関統廃合のため昭和 55 年茨城県筑波学園都市に移転した。この建物を国から払い下げを受け敷島公園ばら園内に移築した。この建物は、県重要文化財に指定されているが、建物内に四展示室（①開所当時の様子を示す資料、②はき立てから繭出荷までの養蚕用具、③上州座繰器をはじめとして製糸業に用いる道具器械、④機織りや養蚕信仰の資料）を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代史をしのぶ記念館としても活用している。県内外からも多くの見学者が訪れている。

平成17年度の開館日数は102日、来館者数は4,481人であった。

開館時は、業務委託している前橋市シルバー人材センターから４人の職員が派遣され、見学者への対応や清掃などを行っている。

《旧蚕糸試験場事務棟保存修理事業》

①　前橋市蚕糸記念館外壁等塗装工事

蚕糸記念館では、平成３年度に外装工事等を実施していたが、長年風雨にさらされたため建物全体の塗装が剥がれ始めており、早急に外壁全体の塗り替えを必要としていた。

このような状態を改善するため、平成17年度では県補助事業（1/3 補助）として外壁等外側部分の全面及び窓枠の内外両側について塗装工事を実施することができた。

＜主な塗装内容＞

1　劣化した既存の塗装を剥離
（ケレン清掃、高圧洗浄）

2　剥離後の塗装面の目溝

3　既存の塗装色と同一または極めて類似した色を選定（既存の塗装を剥離して現地で確認）

採用塗料①：日本ペイント S-NO S05-04779
一液ファインウレタン U100
３部艶有　C15-40H(茶色系)

採用塗料②：日本ペイント S-NO S05-04780
一液ファインウレタン U100
３部艶有　C25-85B(白色系)

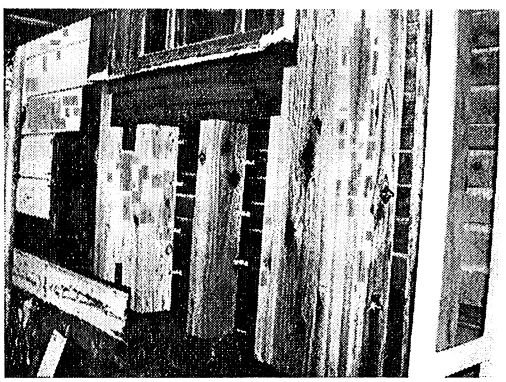
4　下塗１回、上塗２回

外壁塗装終了後の蚕糸記念館

②　前橋市蚕糸記念館外壁等塗装追加工事

蚕糸記念館外壁塗装の剥離作業中に外壁の腐蝕箇所が発見され、腐蝕している外壁の横板をはずしたところ、奥の柱部分まで腐蝕が進んでいた。そこで、柱は建物の重要な構造部分であり、早急に修理する必要があることから、外壁及び柱等の腐蝕箇所を取り替えた。

また、柱は、筋交いと繋がっており１本そのまま取り替えることができないため、柱の腐蝕箇所だけを切断し、新しい同質の部材で繋ぎ、強度を保つための補強工事を実施した。



腐蝕箇所取替補強工事の状況

（5）総社資料館の管理・活用

平成17年度の開館日数は244日、来館者数は4,790人であった。4年生・6年生を中心に約40の小学校が来館し、天狗岩用水や昔の道具・総社地区の古墳等の学習を行った。また、約10の一般団体が見学に訪れ、総社地区の歴史について理解を深めた。

6月からは、4回にわたり、説明員会長を中心に、総社地区を回る自主研修会を開催した。日頃身近にある文化財であるが、改めて説明を聞くことにより、総社地区にある文化財の価値を再認識する、よい機会となった。

3月には、説明員研修会を実施した。今回は、合併した地域からの来館者の増加や合併地域の文化財に関する問い合わせにも対応できるよう、大胡・宮城・粕川地区を中心とした文化財の見学を行った。現地で、学芸員や説明員、一般の方から説明をいただき、新市域の文化財について認識を深めることができた。説明に取り組む熱心な姿に、説明員は、大いに刺激を受け、充実した研修となった。

熱心に研修する説明員

（6）前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民俗資料館は旧粕川村の施設を引き継いだものである。新市域となった大胡・宮城・粕川地区、ならびに大室古墳群などを含む市北東部の赤城山南麓地域（以下、地域とする）の歴史や民俗が学習できる施設として活用が図れるようにした。

この趣旨にしたがい、今年度は第1展示室を中心に展示物の入れ替えを行った。展示物の選定や展示コーナーの設定にあたっては、資料を単に年代順に羅列することは避け、赤城山の豊かな自然のもとで営まれてきた地域の歴史的、民俗的な特徴を来館者にアピールできるように配慮した。

展示コーナーと展示物の概要は次のとおりである。

①「赤城山南麓へのいざない」

本資料館見学の導入部として地域を概観できるよう、大型の航空写真や愛らしい表情で有名な馬型埴輪（粕川地区出土）等を展示した。

②「大室公園を訪ねる」

整備事業が終了した大室古墳群を紹介するため、大室公園や大室古墳群の写真、各古墳の解説等を展示した。

③「考古資料展示コーナー」

地域から出土した旧石器時代から中世までの遺物や遺跡の写真等を展示した。このなかには大室古墳群から出土した埴輪や、山岳寺院跡として有名になった宇通遺跡（粕川地区）から出土した遺物その他がある。大室古墳群の埴輪についてはスペースの関係上、代表的なもの11点を選び出し展示することとした。

④「トピック展示コーナー」

・縄文人の知恵　陥し穴
・山上碑と豪族「大児臣」
・赤城南麓の鉄づくり

発掘調査の結果明らかになった、地域の特徴となる3つの事象について、遺物、写真、図等で展示した。国指定史跡である山上碑に関しては高崎市教育委員会より拓本等の資料提供を受けた。また鉄や須恵器を生産した遺構である八ヶ峰生産址（大胡地区）については出土遺物の他に旧大胡町で製作した遺跡の模型も展示した。

⑤「古文書の世界」

近世の民主支配や米作りに関する古文書や古地図を展示した。

⑥「祈り・祭り」

赤城山と人々の信仰との関わりについて、遺構や寺社、祭りの様子等を写真で展示した。

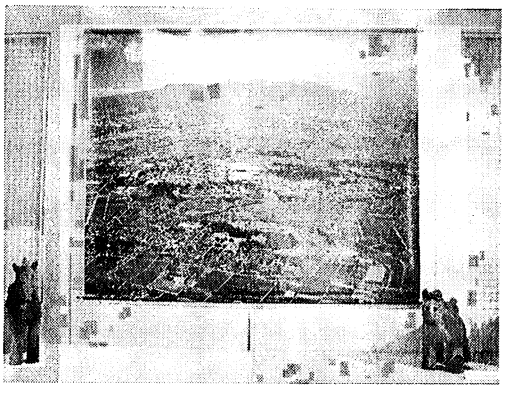
また旧来から展示されている農耕の様子の模型や農家の台所の模型については、現状のままとした。

なお、第2展示室については、以前は養蚕に関わる用具等の展示を主としていたが、加えて農具類も展示し、かつての地域の人々の生業の様子が同時に見学できるようにした。

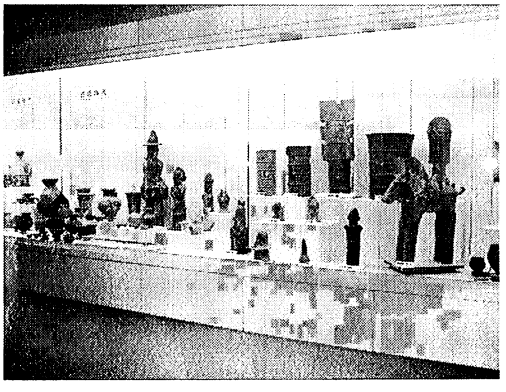
これらの展示替えにともない、パンフレットも新しい内容のものを作成した。

日常管理としては、臨時職員を配置し、来館者への展示の案内、展示物等の管理や清掃を行うとともに、警備保障や定期清掃などについては専門業者に業務委託して実施し、快適に見学ができるように配慮した。

今年度の見学者はのべ3,509人を数える。団体はのべ65団体、1,582人であった。昨年度までの来館者数は年間約2,000人前後で推移していたが、これらに比べ約1,500人の増加となる。これは市町村合併にともない生活課主催の市有施設見学や旧市内のいくつかの自治会や敬老会などの見学の回数が大幅に増えたことが大きいと考えられる。また、古代生活体験事業の会場や生涯学習課主催のスタンプラリーのポイントとなるなどしたため、児童・生徒の見学も増加している。

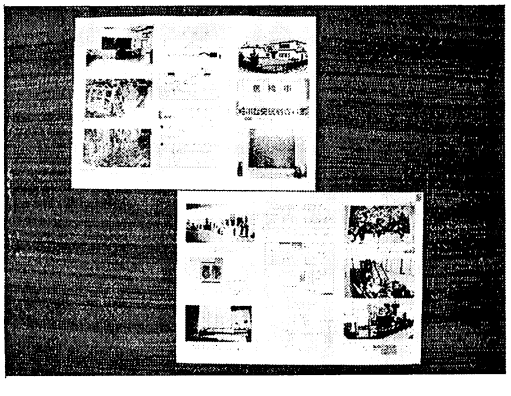


展示の様子①（赤城山南麓へのいざない）



展示の様子②（考古資料展示コーナー）

展示の様子③（トピック展示コーナー）



新たに2,000部作成したパンフレット

（7）前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

粕川出土文化財管理センターは旧粕川村の施設を引き継いだものである。発掘調査により出土した貴重な文化財を収蔵、展示できる施設として、また発掘調査、整理作業の拠点として維持管理を行うとともに広く活用を図った。

市民への公開としては、隣接する粕川歴史民俗資料館への見学団体に実際の整理作業の様子を紹介することや、研究者からの考古遺物の調査依頼に対応することを行った。

日常の管理としては、警備保障や定期清掃などを業務委託により実施し、作業者や見学者の利便性を図った。

（8）大室公園史跡の管理・活用

大室公園史跡整備事業により、これまでに整備が完了していた①後二子古墳（石室前レプリカ・石室内・全体模型）②小二子古墳（埴輪等レプリカ）③中二子古墳（中堤埴輪列）に、整備が17年度で完了した④前二子墳古墳（石室内）を加え、一般公開している。これらの史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選任して、大室古墳群の史跡管理業務を委託している。

業務実施日は以下のとおりである。

4月から11月まで：月曜日を除く毎日

12月から3月まで：土・日・祝日

石室鍵開け午前9：00

石室鍵閉め午後4：00

※点検・清掃は石室開閉時に実施している。

なお、史跡を保護し、県内外から訪れるに見学者に快適な環境を提供するために年6回行っていた古墳群の史跡除草は、平成17年度から前橋市公園管理事務所に事務が移管された。

（9）大室公園民家園の管理・活用

民家園は、民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。平成17年度の開館日は224日、民家園来園者は記帳者だけでも5,348名となっている。

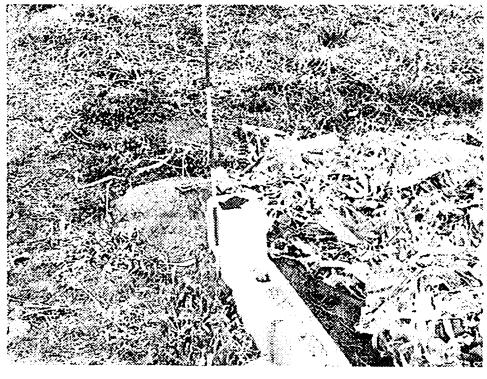
活動状況としては、前年同様南側の畑で地元の大室小学校の児童と民家保存会の会員とで除草、サツマイモ植え、その収穫やサルビア植え、コスモス植え、茶の栽培、火もし等、地域に根ざした活動を行っている。

2　整備事業

（1）　市内指定史跡等の整備

①市指定史跡五代大日塚古墳史跡境界杭の設置

平成17年4月19日に市指定史跡となった五代大日塚古墳について、史跡指定範囲を確定するための測量を行い、この測量データをもとに史跡境界杭を6本埋設した。

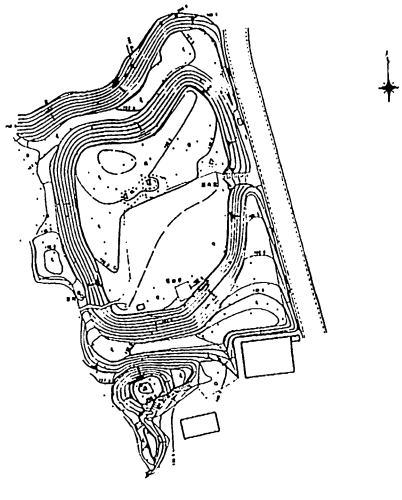


設置された史跡境界杭

②県指定史跡膳城跡平面測量の実施

県指定史跡膳城跡は粕川町膳に位置している。県内の城館址のなかでも堀などの残存状態がよいことでも知られている。

今後の保存・活用に必要な整備事業等を実施する基礎的な資料を得るために、平面測量を実施することとした。今年度は本丸部分の測量を専門業者に委託して実施した。時期は平成18年2～3月、成果品は1/500平面図他である。



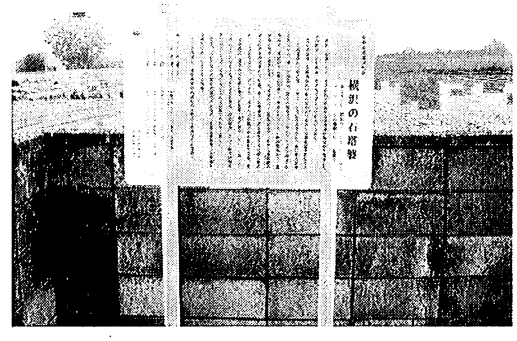
膳城跡本丸部分平面測量図

（2）文化財標柱・説明板の書き替え

平成16年12月5日の市町村合併に伴い、旧町村名で表示されている標柱及び説明板の表示訂正を実施するとともに、錆の発生等傷みの目立つ標柱及び説明板の修理を併せて実施した。

①　大胡地区文化財標柱・説明板書替工事

標柱文字修正	8件
説明板文字修正	1件
説明板全面書き替え	2件
説明板建て替え	1件



説明板建て替え（横沢の石塔婆）

②　宮城地区文化財標柱・説明板書替工事

標柱文字修正	3件
説明板文字修正	1件
標柱全面書き替え	27件

標柱全面書き替え（苗ケ島の芭蕉句碑）

③　粕川地区文化財標柱・説明板書替工事

標柱文字修正	11件
説明板文字修正	9件
標柱全面書き替え	1件

標柱全面書き替え（馬頭観世音石造）

大胡地区文化財標柱・説明板書替工事一覧表

区分	指定物件名	所在地	標柱	説明板	標柱修正内容	説明板修正内容
県重文	横沢の石塔婆	横沢町677	×	建	-	説明板建て替え
市重文	五十山薬師如来、十二神将	堀越町968-1(五十山公民館北)	文	×	大胡町→前橋市(2箇所)	—
市史跡	道しるべ	大胡町80(ぐんしん駐車場北西角)	文	×	大胡町→前橋市(1箇所)	—
市史跡	道しるべ	河原浜町730(向町信号北)	文	×	大胡町→前橋市(1箇所)	—
市史跡	牧野家墓石	堀越町1259　養林寺(1255-1 墓地内)	×	文	-	大胡町→前橋市(2箇所)
市史跡	大胡太郎の墓石	堀越町1240　長善寺(1242-1～4 墓地内)	×	全	-	説明文全面書き替え
市史跡	稲荷塚古墳	上大屋町8(大胡ﾊﾞｲﾊﾟｽホンﾀﾞﾌﾟﾘﾓ南)	×	全	-	説明文全面書き替え
市史跡	龍性寺石幢	茂木町1203　龍性寺	文	×	町→市(1箇所) 大胡町→前橋市(1箇所)	—
市史跡	堀越共同墓地の石幢	堀越町2122(山下燃料水道西)	文	×	町→市(1箇所) 大胡町→前橋市(1箇所)	—
市史跡	鹿沼家墓地の石幢	上大屋町133(前東商東 住宅街墓地)	文	×	町→市(1箇所) 大胡町→前橋市(1箇所)	—
市重無文	太々神楽の舞	河原浜町638　大胡神社(615-1 本殿)	文	×	大胡町→前橋市(2箇所)	—
市天然	柊樹林	河原浜町143(柊薬師)	文	×	大胡町→前橋市(2箇所)	—
		文(文字修正)	8	1		
		全(全面書き替え)	0	2		
		建(建て替え)	0	1		

粕川地区文化財標柱・説明板書替工事一覧表

区分	指定物件名	所在地	標柱	説明板	標柱修正内容	説明板修正内容
国重美	六地蔵石殿	粕川町月田1260　近戸神社	文	建	粕川村→前橋市(1箇所)	次年度以降建て替え
県史跡	鏡手塚古墳	粕川町月田213-1	文	文	粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村→前橋市(1箇所)
県史跡	膳城跡	粕川町膳83-2他	文	文	粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村→前橋市(1箇所)
県史跡	檀塚古墳	粕川町月田207他	文	文	粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村→前橋市(1箇所)
県重無民	月田近戸神社の獅子舞	粕川町月田1261近戸神社	文	文	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)
県天然	月田のモチノキ	粕川町月田1308	文	文	粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村→前橋市(1箇所)
市重文	三ケ尻赤城塔	粕川町深津994(西福寺西350m)	文	文	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村指定重要美術品→前橋市指定重要文化財(1箇所)、粕川村→前橋市(1箇所)
市重文	馬頭観世音石像	粕川町稲里481-1(墓地内)	全	文	正面「市指定重要文化財　馬頭観世音石像」、右面「昭和四九年五月一日指定」、左面「前橋市教育委員会」	粕川村指定重要美術品→前橋市指定重要文化財(1箇所)、粕川村→前橋市(1箇所)
市史跡	女渕城跡	粕川町女渕1221-1他	文	建	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	次年度以降建て替え
市史跡	中村城跡	粕川町中496他	×	文	-	粕川村→前橋市(2箇所)
市史跡	宇通遺跡	粕川町中之沢456他	文	×	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	—
市重有民	三番叟かしら(附 付属古文書)	粕川町込皆戸129-1　白山神社	文	×	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	—
市重無民	御霊神社太々神楽	粕川町女渕1174-1　御霊神社	文	文	村→市(1箇所) 粕川村→前橋市(1箇所)	粕川村指定無権文化財→前橋市指定重要無形民俗文化財(1箇所)、粕川村女淵殿原→前橋市女渕(1箇所)、粕川村指定→指定(1箇所)、粕川村→前橋市(1箇所)
		文(文字修正)	11	9		
		全(全面書き替え)	1	0		

宮城地区文化財標柱・説明板書替工事一覧表

区分	指定物件名	所在地	修正区分	標柱等修正内容
市重文	板碑	鼻毛石町766	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	赤城寺六地蔵の石幢	鼻毛石町147-1　赤城寺墓地内	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	忠治の赤城塔	苗ケ島町2036-3	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	小林の赤城塔	苗ケ島町599	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	金剛寺の六地蔵の石幢	苗ケ島町1144　金剛寺墓地内	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	湯の沢薬師地蔵	苗ケ島町2034（赤城温泉）	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	双体道祖神	苗ケ島町1147-2　金剛寺	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	爪ひき不動尊	鼻毛石町329-1	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	赤城塔	鼻毛石町963	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	五輪塔	鼻毛石町201-31	標文	宮城村→前橋市（4箇所）
市重文	凝灰岩石仏	鼻毛石町656-1	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石殿（おびんづる様）	苗ケ島町1147-2　金剛寺	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	赤城塔（並木道祖神）	苗ケ島町1147-2　金剛寺	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石殿（開山円義上人の墓）	苗ケ島町1144　金剛寺墓地内	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石仏（石合薬師）	苗ケ島町503	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石仏（山街道薬師）	苗ケ島町631-1	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	五輪塔	苗ケ島町501	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石灯籠	苗ケ島町1100-1	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	石殿	苗ケ島町1088-1　苗島神社	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市重文	十一面観音木像	苗ケ島町1147-2　金剛寺	標文	宮城村→前橋市（3箇所）
市重文	金剛寺欄間	苗ケ島町1147-2　金剛寺	同一柱	十一面観音木造と同一柱（文字修正）
市重文	鼻毛石河原の石造地蔵菩薩立像	鼻毛石町837-1	標文	宮城村→前橋市（3箇所）
市重文	鼻毛石河原の双体道祖神	鼻毛石町837-1	同一柱	鼻毛石河原の石造地蔵菩薩立像と同一柱（文字修正）
市重文	赤城寺の種子十三仏塔	鼻毛石町141-1（墓地道路側）	標全	全面書き替え
市重文	苗ケ島の芭蕉句碑	苗ケ島町1117-1	標全	全面書き替え
市史跡	斉藤多須久翁の碑	苗ケ島町1061-1（桜井商店北）	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	北爪将監の供養塔	鼻毛石町147-1　赤城寺墓地内	同一柱	赤城寺六地蔵の石幢と同一柱（全面書き替え）
市史跡	東宮鐵男大佐の墓	苗ケ島町1150　金剛寺墓地内	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	白山古墳	苗ケ島町1659	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	下田中石宮（稲荷様）	苗ケ島町541-2	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	片並木製鉄跡	苗ケ島町1796-5	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	枡形遺跡	苗ケ島町2732他	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市史跡	宿の平城跡	苗ケ島町2062-1他	標全	錆落とし、錆止め及び全面書き替え
市天然	金剛寺のナツメ	苗ケ島町1147-2　金剛寺	説文	宮城村→前橋市（2箇所）
		標文（標柱文字修正）	3	
		説文（説明板文字修正）	1	
		標全（標柱全面書き替え）	27	

3　普及事業

（1）大室古墳群史跡整備完成記念公開行事

1　行事の概要

① 事業の趣旨

平成９年度から８年間をかけて実施してきた大室古墳群の整備も完成を迎えた。今回、すべての史跡整備事業が完了したことから、文化財資料活用の推進並びに文化財普及に寄与することを目的とし、前二子古墳石室の公開に合わせて、テープカット、郷土芸能・鼓笛の公演、古墳めぐり、出土品の展示、体験事業、その他各種イベントを開催した。多くの来場者があり、盛大に実施することができた。

② 開催期日

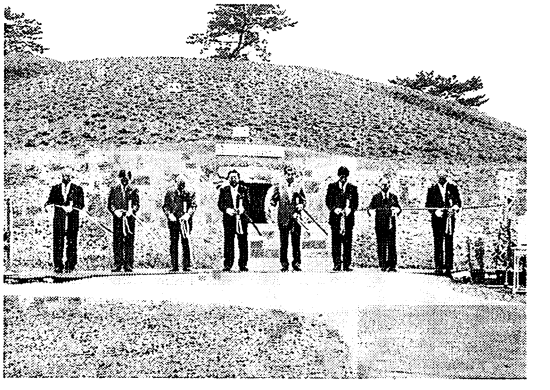
平成 17 年 10 月 29 日（土）

③ 開催会場

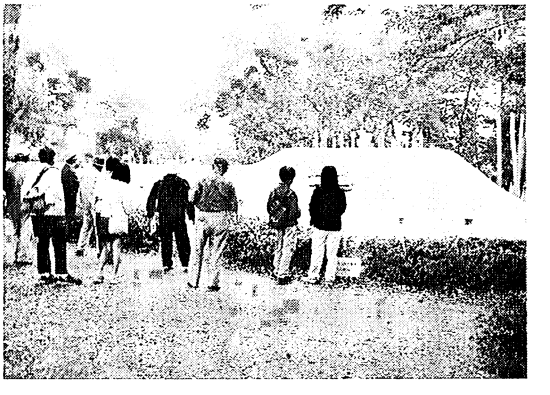
大室古墳群一帯および民家園など

④ 運営体制

主催　前橋市・前橋市教育委員会



記念式典テープカットの様子



古墳見学の様子

2　行事の内容及び来場・参加者数等

No.	行事名等	会場	来場・参加者数等
1	記念式典	前二子古墳会場	250　人
2	荒子小学校マーチングバンド演奏	中二子古墳会場	100　人
3	古墳めぐりスタンプ・ラリー	各会場	1,500　人
4	スタンプ・ラリー記念グッズ配布（犬埴輪、鳥土器）	南・北案内所	800　個
5	前二子古墳石室見学	前二子古墳	1,800　人
6	中二子古墳見学	中二子古墳	1,200　人
7	後二子古墳見学	後二子古墳	1,200　人
8	小二子古墳見学	小二子古墳	1,200　人
9	赤城型民家見学	民家園	1,200　人
10	埴輪展示見学	埴輪展示会場	1,200　人
11	古代体験イベント・part1 勾玉作り	民家園会場	80　人
12	緑陰講座「前二子古墳の調査の語るもの」	中二子古墳会場	170　人
13	ふるさとの味コーナー・JA 前橋市けやき工房	中二子古墳会場	300　食
14	ふるさとの味コーナー・JA 前橋市宮城支所	中二子古墳会場	200　食
15	赤城型民家「知音会オン・ステージ（琴・尺八演奏）」	民家園会場	80　人
16	荒砥中学校吹奏楽部公演	中二子古墳会場	80　人
17	太鼓競演・華龍太鼓	中二子古墳会場	150　人
18	太鼓競演・上州大胡風神太鼓	中二子古墳会場	150　人
19	古代体験イベント・part2 火おこし	民家園会場	40　人
20	特別公演「八木節 in omuro」　西大室町八木節会	後二子古墳会場	120　人
21	みんなで挑戦！！前橋歴史○×クイズ選手権	後二子古墳会場	120　人

（2）第31回前橋市文化財展

・テーマ　『新・前橋文化財紀行
　　～巡ってみよう！大胡・宮城・粕川地区～』
・期　間　平成17年11月5日（土）～11月20日（日）
・会　場　前橋市中央公民館1階ロビー

平成16年12月の大胡・宮城・粕川との合併に伴い、今回新・前橋を広く市民にアピールするために、新たに加わった大胡・宮城・粕川地区の文化財に焦点をあて開催した。この企画は、市民の方々に新・前橋の文化財について知っていただけることはもとより、歴史を学ぶ楽しさのみならず、文化財に対する関心や保護思想を高めるよい機会になったと考えられる。入場者数は1,029名。

興味深く展示を見る来館者

（3）第24回文化財講演会

文化財展開催期間に、文化財展と同じ『新・前橋文化財紀行～巡ってみよう！大胡・宮城・粕川地区～』をテーマに開催した。

・日　時　　11月12日（土）午後2時～4時まで
・内　容　　『県都前橋市の歴史
　　～赤城南面の町村合併の歴史的必然性～』
・講　師　　近藤　義雄　氏
　　（かみつけの里博物館長）
・会　場　　前橋市中央公民館　第3学習室
・受講者数　51名

熱心に話を聞く受講者

（4）第33回前橋市郷土芸能大会

・日時　平成17年11月19日（土）
・会場　前橋市民文化会館　小ホール

本大会は、平成9年から前橋広域市町村圏と共催の形で行われてきたが、平成16年12月の合併に伴い、平成17年度の大会から、合併地域も含めた新しい前橋市の大会として、開催された。

合併後初の大会では、三夜沢赤城神社太々神楽保存会と込皆戸三番叟保存会の2団体の公演があった。また、前橋市郷土芸能連絡協議会から選出の5団体（神楽・獅子舞・囃子・古謡・語りもの等）も各地に伝わる芸能を披露し、合併初年度を飾るにふさわしい大会となった。各地域の多様な郷土芸能が見られ、子供達中心の公演もあったため、客席には、新たな客層も見受けられた。会場には、約680人の来場者があり、好評の内に、大会は、幕を閉じた。

込皆戸操り人形式三番叟

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
前橋鳶木遣り・纏振り	前橋鳶伝統文化保存会　華粋会	城東町二
三夜沢赤城神社太々神楽	赤城神社太々神楽保存会	三夜沢町
鳥追い祭り（総社山王）	総社町山王自治会鳥追い祭り保存会	総社町総社
江田の獅子舞	江田町獅子舞保存会	江田町
新前橋祭りばやし	新前橋祭りばやし保存会	新前橋町
込皆戸操り人形式三番叟	込皆戸三番叟保存会	粕川町込皆戸
総社神社太々神楽	総社神社太々神楽保存会	元総社町

（5）文化財普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、市内にある文化財や郷土芸能等を市民の皆様に広く知っていただくことを目的に、平成 15 年度より開始した事業である。平成 17 年度は、6月と 10 月と３月の３回実施した。

〈第１回目〉
日　時：6月 28 日（火）13 時 30 分～16 時 30 分
講　師：文化財保護指導員　栗原　秀雄　氏
参加者：39 名
コース：芳賀・桂萱・南橘地区

宝林寺（石造観音菩薩坐像）→善勝寺（鉄造阿弥陀如来坐像）→薬師堂（石造薬師三尊立像）→宝禅寺（異型板碑他）

〈第２回目〉
日　時：10 月 22 日（土）８時 50 分～15 時 00 分
講　師：子供探訪とし親子の参加のため講師なし
参加者：14 名（子供８名、大人６名）
コース：子供用に設定

サンデン→三夜沢赤城神社→興懸→フラワーパーク→阿久沢家住宅

〈第３回目〉
日　時：３月 14 日（火）13 時 30 分～16 時 50 分
講　師：文化財保護指導員　東宮　惇允　氏
参加者：39 名
コース：宮城地区

赤城寺（六地蔵の石幢、種子十三仏塔他）→金剛寺（双体道祖神、欄間、懸仏他）→東宮鐵夫大佐の墓→苗ヶ島の芭蕉句碑→石灯籠→齋藤多須久翁の碑→阿久沢家住宅

② 出張授業「おもしろ文化財教室」

現在、学校において、社会科の学習の中でのむかし調べや天狗岩用水・古墳などの歴史学習、さらに総合的な学習を進めていく際、先人の足跡である文化財が大変重要な教材となっており、文化財保護課へもこれらの学習に対応した問い合わせや要望が多く寄せられている。そうした学校への要望に応えるとともに、次代を担う児童・生徒に対する積極的な働きかけを推進していく必要があるため、本事業を実施することとした。

対象は、市内小・中学校の児童・生徒とした。学校からの依頼を受けて、文化財保護課職員が現地や学校へ出向き、先生方と協力しながら学習を進めることとした。また、児童・生徒が文化財保護課へ来て学習したいという要望もこれまで多く寄せられていたことから、このような学習にも対応することとした。

《17 年度に実施した出張授業》

実施日	学校名　学年	実施内容（実施場所）
6/16	粕川小４年	昔のくらし・石うす体験（粕川歴史民俗資料館）
6/17	附属小５年	前橋の古墳（保護課） 近代の歴史（保護課） 前橋城（保護課） 大室古墳群（現地） 臨江閣（現地）
6/30	芳賀小６年	土器作り（学校） 埴輪作り（学校）
7/13	大利根小６年	勾玉作り、土器・石器について（学校）
7/15	附属小６年	勾玉作り（学校）
8/4	若宮小５・６年	火おこし体験（学校）
9/6	荒砥中１年	大室古墳群（学校）
1/14	清里小（希望者）	土器作り（学校）

鉄造阿弥陀如来坐像を見学する参加者

大利根小６年生の出張授業の様子

③ 郷土芸能映像記録保存

郷土芸能映像記録保存は、平成８年度から始まり、今年度は、10回目となった。専門業者に撮影・編集を委託し、芸能の保存と正確な継承に役立てることを目的として、行っているものである。

平成17年度（10月16日）は、上泉獅子舞保存会に依頼し、「上泉の獅子舞」の撮影を行った。諏訪神社での奉納の様子だけでなく、獅子頭や笛等の道具や奉納前の自治会館での伝統的なしきたり等の撮影も行った。

当日の様子

④ 文化財めぐりパンフレット等の作成

旧市内を６地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は「芳賀・桂萱」「元総社・東」の２地区のパンフレットを増刷した。増刷にあたっては、新たに加わった新指定文化財を追加掲載するとともに、内容の見直しを行った。

また、合併した「大胡」、「宮城」、「粕川」の３地区についても、新たに文化財めぐりパンフレットを作成し、このパンフレットを通して市民文化向上の一助といたしたい。なお、このパンフレットは希望する市民に配布している。

総社資料館のパンフレットも一部手直しをして増刷した。

新たに作成した文化財めぐりパンフレット

⑤ 文化財資料の貸出

学校や出版社・新聞社・県市町村教委等より、依頼を受け写真資料等の貸し出しを行った。主な貸し出し資料と貸し出し先は、以下の通りである。

貸し出し資料	貸し出し先
飛石稲荷神社の写真	クリエイティブアダック（株）
火おこし道具	前橋市立若宮小学校
山王廃寺復元図	株式会社大和書房
蚕糸記念館関係資料	大分県山香町教委
登録有形文化財（写真）	群馬県教委
座繰り（画像）	上毛新聞社出版局

⑥ 各種講座・文化財めぐりへの講師派遣

前橋地区ハイヤー協議会の講習会や地域の歴史愛好会の学習会等の講師として、依頼を受け、学習活動への支援を行った。また、小学校の社会科見学や自治会の史跡めぐりの講師として、整備の終了した大室公園を中心に、大胡城跡、粕川歴史民俗資料館、臨江閣等の案内・説明を行い、受講者や参加者の文化財への関心や理解を深めることができた。

大胡城の説明に耳を傾ける学生

（6）古代生活体験学習

今年で４年目を迎えたこの事業は、史跡整備された大室公園や粕川歴史民俗資料館等で、古代生活の様々な体験をし、子どもたちが郷土の文化財に対する意識の高揚を図ることを目的としている。また、公立の小・中学校における完全週５日制に対応する事業としての意味合いももつ。今年度も昨年度に引き続き、参加者の利便性を考え、会場を替えて実施した。

実施内容は次のとおりである。

回数	日時・会場	内　容	参加数
1	5月28日（土） 9:30～12:15 粕川歴史民俗資料館、膳城跡	・勾玉づくり	59人
2	6月25日（土） 9:30～12:15 ミニギャラリー千代田	・縄文時代の技法「アンギン編み」でコースターづくり	40人（保護者6人含む）
3	7月23日（土） 9:45～12:30 大室公園民家園	・踊る埴輪づくり	60人（保護者8人含む）
4	9月3日（土） 9:30～12:15 総社資料館	・勾玉・管玉づくり	59人（保護者4人含む）

＊小学4年生から中学3年生を対象に実施。

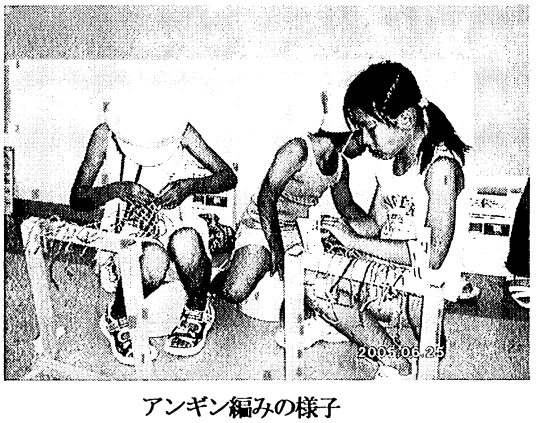
＊10月29日（土）に開催された大室古墳群史跡整備公開記念行事では勾玉づくりと火おこしを実施。

・勾玉づくり参加者数80名

・火おこし参加者数40名

この活動も古代生活体験事業の一環として位置づけ、平成17年度は計5回実施。

＊11月20日（日）に生涯学習課とのコラボレーションによる「臨江閣のつどい」を開催し、勾玉づくりを行った。参加者40名



アンギン編みの様子

埴輪づくりに熱中する参加者

（7）文化財保存団体等育成補助

① 文化財保存団体への補助

地元に残る文化財に関する説明版や標注の設置を継続的に行っている団体、郷土芸能の保存・継承に尽力している団体、大胡・宮城・粕川支所管内指定郷土芸能団体（合併協議により、平成18年度まで交付予定）に、補助金を交付した。補助金を交付した団体は、以下の通りである。

・総社地区史跡愛存会
・前橋市郷土芸能連絡協議会
・足軽町太々神楽保存会（大胡地区）
・赤城神社太々神楽保存会（宮城地区）
・大前田獅子舞保存会（宮城地区）
・月田獅子舞保存会（粕川地区）
・込皆戸三番叟保存会（粕川地区）
・御霊神社太々神楽保存会（粕川地区）

② 国指定重要文化財「阿久澤家住宅」保存・管理への補助

国指定重要文化財「阿久澤家住宅」の保存・管理について、所有者に対し、群馬県より文化財保存事業費として補助金が交付されている。これを受け、前橋市も、前橋市文化財保存事業費補助金交付要項の中の「県が保存の必要を認める文化財」であるという記述に基づき、補助金を交付した。なお、補助対象となる業務は、消防設備点検業務および清掃業務である。

（8）職場体験学習

今年度は、市内7校の職場体験学習の生徒を受け入れた。概要は以下の通りである。

月　日	学校名・学年・人数	実施場所
6月9日	第七中学校2年生7人	六供遺跡群
6月17日	桂萱中学校2年生2人	元総社蒼海遺跡群（2）
9月8日	木瀬中学校2年生1人	元総社蒼海遺跡群（1）
9月15日	南橘中学校2年生3人	元総社蒼海遺跡群（2）
10月6日	第二中学校2年生1人	元総社蒼海遺跡群（1）
10月12日	第五中学校2年生1人	元総社蒼海遺跡群（4）
10月13日	第一中学校2年生4人	元総社蒼海遺跡群（5）

4　埋蔵文化財発掘調査事業

平成17年度の発掘調査事業をふりかえって

（1）発掘調査事業

詳細は一覧表に記載した通りである。調査体制は直営事業が2名1組、4班体制であり、他に民間発掘調査機関の応援を得た。調査事業件数13、このうち直営12、委託1であった。総調査面積16,073㎡であり、直営14,873㎡、委託1,200㎡であった。

このうち上野国府関連調査である元総社蒼海遺跡群の発掘調査は、平成11年度から調査を開始し、17年度で7年目を迎える。今年度の調査では、多くの住居跡をはじめ、昭和57年度調査の閑泉樋遺跡、61年度調査の閑泉明神北遺跡で検出された古代の大溝の延長部分が30ｍにわたって検出された。国府域の北を画する溝と注目されるが、他に存在する区画との比較分析が必要とされる。

また、住宅造成に係わる大胡天神風呂遺跡の調査では、古墳時代や平安時代の集落のほか縄文中期勝坂～加曽利Ｅ1式期の住居跡が検出された。さらに六供遺跡群では集落と生産域の解明ができ、前橋・高崎連携事業である新前橋・川曲線道路建設における調査では、昨年度に引き続き前橋・高崎台地に拡がる条里制水田跡の調査を行った。

文京町№1遺跡は、ダイハツ車体跡地の調査である。戦前には軍需工場が存在し、戦後はダイハツ車体があったため遺存状況は悪いものと判断したが、今回の開発地下にAs-Bの純層の堆積がみられたことから、平安時代の条里水田が検出された。古墳時代の水田は検出出来なかったが、前橋台地を斜行する2本の女溝の存在とともに上陽・広瀬地区から文京町、本町までの崖線上に存在する古墳群の背景となった生産域を解明する端緒となった。

元総社弥勒遺跡については、試掘調査により遺跡地と判明したため、直ちに調査となった。調査期間の極めて少ない中で検出された住居跡は6世紀前半から11世紀代まで及び、その数30軒以上に及んだ。出土品には円面硯、緑釉陶器、銅椀などの国府域を象徴する遺物が検出されている。

女堀の調査は、下水道建設に伴う狭い調査区であったが、平成16年度に引き続き女堀の確認作業ができた。今まで、地籍図から走行を確認出来なかった堀之下町地内での女堀のラインを確定できた。

（2）報告書作成事業

昨年度の合併に伴い旧大胡町関係の遺物整理事業3件が引継となったため整理作業を実施し、報告書の刊行を行った。

○樋越南部遺跡群…東前沖遺跡・西前沖遺跡・西久保遺跡。平成13年度から15年度までの3年間に亘って調査された遺跡群で調査面積30,609㎡を計る。主な遺構は古代住居、古墳、近世掘立柱建物跡である。A4判401頁の報告書を刊行。

○堀越並木遺跡D地点・堀越丙諏訪遺跡

平成16年6月から12月まで3000㎡の調査を実施し、並木からは縄文中期加曽利E3式を中心にした住居跡8軒、土坑84基、丙諏訪からは縄文時代陥し穴13基を検出。A4判197頁の報告書を刊行。

○堀越甲真木遺跡

合併直後に試掘調査を実施した結果、遺跡と判明したため発掘調査を実施。調査面積4700㎡から縄文時代早期後半の陥し穴8基を検出。A4判16頁の報告書を刊行。

（3）開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議は合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均130件以上、年間にして1654件もの協議に対応した。このうち1,000㎡を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数52件であった。このうち調査に移行したものは3件である。

今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の再整備を早急に進める必要がある。

平成17年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺　跡　名	ふりがな	コード	代表地番	面積	方式	調査原因	調査期間
1	元総社蒼海遺跡群(1)	おうみ	17A130-1～4	元総社町1732-1	1,263	直	区画整理	17/ 5/16-12/19
2	元総社蒼海遺跡群(2)	おうみ	17A130-5～9	元総社町1800-3	1,276	直	区画整理	17/ 5/17- 9/14
3	元総社蒼海遺跡群(4)	おうみ	17A130-10	元総社町1709	448	直	区画整理	17/ 9/ 9-11/25
4	元総社蒼海遺跡群(5)	おうみ	17A130-11	元総社町1752-1	2,055	直	区画整理	17/ 9/ 8-12/26
5	元総社蒼海遺跡群(6)	おうみ	17A130-12	元総社町2310-2	2,235	直	区画整理	17/ 9/ 9-11/23
6	元総社蒼海遺跡群(7)	おうみ	17A130-13	元総社町3589	816	直	公民館移転	17/11/10-12/19
7	川曲柳橋Ⅲ遺跡	やなぎばし	17A133	川曲町178	1,200	委	道路改良	18/ 1/20- 3/24
8	六供遺跡群	ろっく	17H39	六供町698	1,517	直	区画整理	17/ 5/24- 8/ 9
9	天神風呂遺跡	てんじんぶろ	17I2	茂木町559-1	330	直	宅地造成	17/ 7/15- 8/ 3
10	小坂子一木峯遺跡Ⅱ	いちきみね	17C36	小坂子町1827-23	768	直	道路改良	17/ 5/ 9- 6/ 1
11	文京町№1遺跡	なんばーわん	17H40	文京町2-1-53	3,300	直	店舗建設	18/ 2/ 6- 2/25
12	元総社弥勒遺跡	みろく	17A40	元総社町1239-6	500	直	宅地造成	18/ 2/ 6- 2/15
13	女堀	おんなぼり		堀之下町327-1	365	直	下水道建設	17/ 6/ 7- 7/ 6
					16,073			

平成17年度　試掘調査一覧表

No.	所　在　地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	試掘調査結果
1	亀里町900他	133	宅地造成	H17.4.12	平安時代の水田跡検出。
2	馬場町898他	500	消防署分署新設	H17.4.13	遺構は検出されず。
3	六供町698他	12,500	区画整理事業による宅地造成	H17.4.20～26	古墳時代の住居跡・平安時代の水田跡等検出(六供遺跡群)。
4	稲荷新田町431-1	1,686	宅地造成	H17.4.19	平安時代の水田跡検出（稲荷新田薬師廻遺跡）。
5	上細井町2068-1他	3,638.46	診療所建設	H17.4.20	遺構は検出されず。
6	元総社町937-6他	1,447.17	宅地造成	H17.4.22	奈良・平安時代の住居跡等検出（元総社弥勒遺跡）。
7	茂木町559-1	2,390	宅地造成	H17.4.26	縄文・奈良・平安時代の住居跡等検出。
8	上佐鳥町255	310	宅地造成	H17.4.27	遺構は検出されず。
9	東金丸町28-11	161.81	携帯電話用無線基地局建設	H17.4.28	遺構は検出されず。
10	亀里町948-7	166.66	携帯電話用無線基地局建設	H17.5.10	平安時代の水田跡、中世の溝検出（横手宮田Ⅱ遺跡）。
11	元総社町2273-2他	339.12	宅地造成	H17.5.17	近世以降の溝、井戸検出。
12	三俣町一丁目29-12	384.04	宅地造成	H17.5.19	奈良・平安時代の住居跡検出（三俣城之内遺跡）。
13	元総社町三丁目３－３	144.84	個人住宅建設	H17.5.25	遺構は検出されず。
14	市之関町1049-2他	2,394	作業場新築工事	H17.5.26	古墳時代の住居跡等検出。
15	下佐鳥町416-2	145.42	格納庫及び作業所建設	H17.5.31	遺構は検出されず。
16	元総社町1627-1他	9,514	盛土造成工事	H17.6.2～3	遺構はないが、遺物を検出（元総社西川遺跡）。
17	堀越町1161他	3,609.12	校舎体育館改築	H17.6.6～8	遺構は検出されず。
18	総社町総社1428	967	宅地造成	H17.6.16	周堀検出。
19	元総社町2195-1	3,000	宅地造成	H17.6.17	奈良・平安時代の住居等検出。
20	鼻毛石町637-19	2,083	診療所建設	H17.6.28	遺構は検出されず。
21	南町一丁目87-1	1,614.42	体育館改築	H17.6.21～23	遺構は検出されず。
22	元総社町1740-1他	655.55	宅地造成	H17.6.29	遺構は検出されず。
23	総社町総社3601-12	102.80	個人住宅建設	H17.7.5	古墳・奈良・平安時代の住居跡等検出。
24	江木町619-1	2,135	資材置き場	H17.7.8	古墳・奈良・平安時代の住居跡等検出（江木吹地遺跡）。
25	荻窪町522他	4,000	公園整備	H17.7.14～15	古墳・平安時代の住居跡等検出（荻窪堂ノ池遺跡）。
26	馬場町422-8	430	農業集落排水処理施設建設	H17.7.21～22	縄文・古墳・奈良・平安時代の住居跡等検出（馬場東矢次遺跡）。
27	粕川町一日市228-1他	2,300	道路建設	H17.7.25･27	遺構は検出されず。
28	西大室町2416	829.50	鶏舎建設	H17.8.2	古墳時代の住居跡検出。
29	総社町総社3599-4他	209.87	個人住宅建設	H17.8.29	遺構は検出されず。
30	青梨子町668-2	1,650	授産施設建設	H17.9.1	遺構は検出されず。
31	元総社町1764-1他	4,960	公民館建設	H17.9.14～16	古墳時代の住居跡、溝等検出。
32	元総社町二丁目27-12	301	個人住宅建設	H17.10.5	平安時代の住居跡検出。
33	天川大島町1368-2	1,035.88	宅地造成	H17.10.14	遺構は検出されず。
34	川曲町669-1他	1,733.30	宅地造成	H17.10.18	平安時代の水田跡検出。
35	総社町三丁目11-3	297.10	集合住宅建設	H17.11.22	奈良・平安時代の住居跡検出。
36	東大室町152他	19,748	工場建設	H17.11.15～16	遺構は検出されず。
37	箱田町91-1他	2,581	集合住宅建設	H17.11.29	平安時代の水田跡検出（箱田水田遺跡）。
38	青梨子町823-1	1,328.92	宅地造成	H17.12.7	遺構は検出されず。
39	山王町一丁目28-1他	1,881	宅地造成	H17.12.9	周堀検出。
40	上佐鳥町460-1	1,357.88	新管理棟・講義棟建設	H17.12.16	遺構は検出されず。
41	勝沢町287-1	2,702.72	宅地分譲	H17.12.20～22	奈良・平安時代の住居跡等検出（田之口）。
42	勝沢町367	150	携帯電話用無線基地局建設	H17.12.27	遺構は検出されず。
43	堀越町941-3他	736.88	集合住宅建設	H18.1.6	遺構は検出されず。
44	山王町一丁目28-1他	1,881	宅地造成	H18.1.12	遺構は検出されず。
45	元総社町1239-6	3,825	宅地造成	H18.1.19～20	奈良・平安時代の住居等検出。
46	西大室町1405他	3,101	露天駐車場	H18.1.26	古墳・奈良・平安時代の住居跡等検出。
47	広瀬町三丁目20他	657	市営住宅建設工事	H18.2.8～10	平安時代の住居跡等検出（広瀬木ノ宮遺跡）。
48	元総社町1979-1	785	宅地造成	H18.2.15	平安時代の住居跡検出。
49	荒口町558-2	486	宅地造成	H18.2.16	遺構は検出されず。
50	勝沢町418-11	276	宅地造成	H18.2.17	遺構は検出されず。
51	鼻毛石町1706-4	3,043	支所新築計画	H18.3.7～9	遺構は検出されず。
52	元総社町928-2	1,365	工場用地造成	H18.3.15～16	縄文・奈良・平安時代の住居等検出。

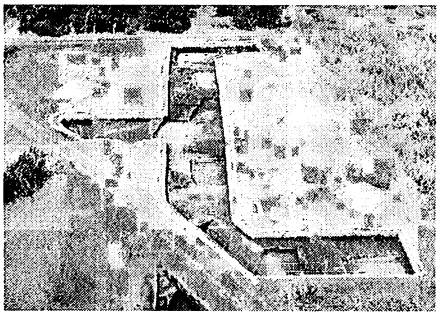
平成17年度　立会調査一覧表

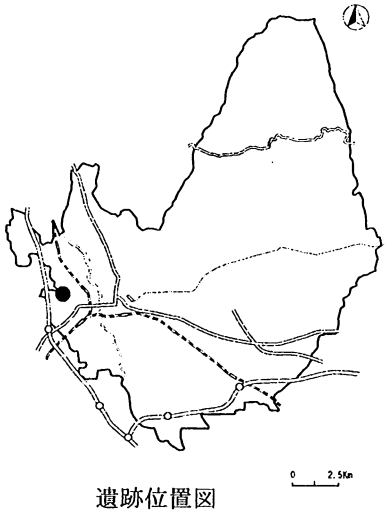
No.	所　在　地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
1	総社町総社1703-5	184	個人住宅建設	平成17.5.20	遺構は検出されず。
2	樋越町51-3	1,725	事務所及び重機置き場	平成17.5.20	遺構は検出されず。
3	総社町総社1502-3他	397	個人住宅建設	平成17.5.23	遺構は検出されず。
4	堀之下町地内	135	下水道建設	平成17.6.7	女堀の規模、走向、位置を確認。
5	横沢町547-5	430	個人住宅建設	平成17.6.8	遺構は検出されず。
6	堤町地内	130	下水道建設	平成17.6.13～	女堀の規模、走向、位置を確認。
7	小屋原町1124-1他	3,329	幼稚園建設	平成17.6.27	遺構は検出されず。
8	堀之下町地内	100	下水道建設	平成17.7.1～6	女堀の規模、走向、位置を確認。
9	元総社町937-30	1,447	宅地造成	平成17.7.19	遺構は検出されず。
10	総社町総社1613他	500	総社小プール改修	平成17.7.27	遺構は検出されず。
11	荻窪町地内	1,950	公園雨水排水設備工事	平成17.11.7	遺構は検出されず。
12	亀泉町208-7	432	物置解体工事	平成17.11.15･	遺構は検出されず。
13	三俣町一丁目47-9他	1,120	宅地造成	平成17.12.6･8	遺構は検出されず。
14	川曲町地内	7,000	道路建設	平成17.12.13	遺構は検出されず。
15	荻窪町地内	1,950	電気設備工事及び排水設備工事	平成17.12.22･	遺構は検出されず。
16	文京町2-1-53他	94,000	店舗建設	平成18.1.27～	塀暗示だの水田跡検出。
17	河原町地内	5,200	道路建設	平成18.2.10	遺構は検出されず。
18	文京町2-1-53他	94,000	店舗建設	平成18.2.10～	遺構は検出されず。
19	田口町1049	300	配水池作り替え工事	平成18.3.10	遺構は検出されず。
20	横沢町46-62	229	個人住宅建設	平成18.3.27	遺構は検出されず。
21	総社町総社2948-1	300	個人住宅建設	平成18.3.29	遺構は検出されず。

平成17年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日
1	元総社蒼海遺跡群（1）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.17
2	元総社蒼海遺跡群（2）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.17
3	元総社蒼海遺跡群（3）	元総社小見Ⅶ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.11.18
4	元総社蒼海遺跡群（4）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.3
5	元総社蒼海遺跡群（5）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.3
6	元総社蒼海遺跡群（6）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.3
7	元総社蒼海遺跡群（7）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.17
8	六供遺跡群	六供遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.17
9	樋越南部遺跡群　東前沖・西前沖・西久保遺跡	樋越前沖・西前沖・西久保遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.13
10	堀越並木Ｄ地点遺跡・堀越丙諏訪遺跡	堀越並木Ｄ地点遺跡・堀越丙諏訪遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.24
11	堀越甲真木遺跡	堀越甲真木遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.10
12	天神風呂遺跡	天神風呂遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.23
13	小坂子一木峯遺跡Ⅱ	小坂子一木峯遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.23
14	文京町No.1遺跡	文京町No.1遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	H18.3.24

1　元総社蒼海遺跡群（1）
(17A130-1～4)





遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業

所在地　前橋市元総社町1743-1

調査期間　平成17年5月16日から
平成17年12月19日まで

担当者　梅澤克典・井上　登

調査面積　1,263㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理作業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

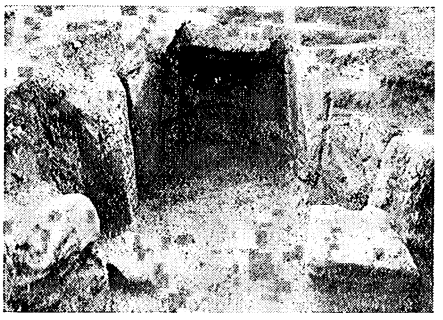
調査の成果　1トレンチで8世紀前半と考えられる住居が1軒、2トレンチで6世紀後半から9世紀後半まで計31軒、3トレンチで7世紀前半と9世紀後半の住居が各1軒、4トレンチで10世紀中頃と11世紀前半の住居各1軒が検出された。

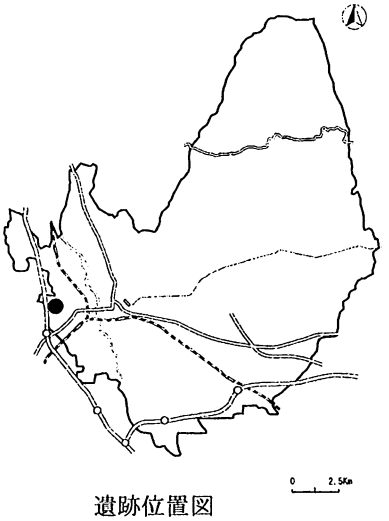
時期別の住居数の推移、占地傾向の違い、住居の設置された方向からみると、2トレンチでは7世紀後半から8世紀前半にかけて、および8世紀後半と2つの画期が認められる。1つ目の画期はⅠ期（～7世紀前半：律令期以前）とⅡ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）の境目で、7世紀後半と推定される国府造営の時期にあたる。また、2つ目の画期は、8世紀後半の国分僧寺・尼寺の建立の時期にあたる。

6・7世紀の住居の方向は国府造営以前の地割りを示し、8世紀前半の住居の向きは国府造営以降、国分二寺建立までの地割りであろう。8世紀後半段階は国分二寺建立期にあたり、国分尼寺周辺の2トレンチでは居住規制があったのか、この時期の住居は認められず、また9世紀前半になってもあまり住居軒数は多くない。ところが9世紀中頃以降、住居数が増加し同じ所に繰り返し住居を構築する。この意味で9世紀前半から中頃にかけて小画期を設けられる可能性が考えられる。

2トレンチでは、古代と考えられる溝跡9条を検出した。いずれも流水の痕跡は無く、土地あるいは建物の区画溝かと考えられる。4トレンチでは蒼海城に関連する堀を検出している。

2　元総社蒼海遺跡群（2）
(17A130-5～9)





遺跡位置図

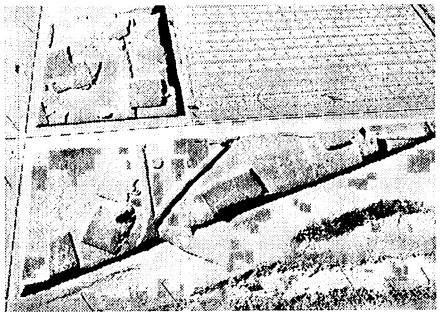
事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所在地　前橋市元総社町 1800-3 他
調査期間　平成 17 年 5 月 17 日から
平成 17 年 9 月 14 日まで
担当者　近藤雅順・池田史人
調査面積　1,276 ㎡
調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の成果　本遺跡の調査区（5～9トレンチ）は牛池川と染谷川に挟まれた微高地上に立地し、推定上野国府域の西側、東西 600m・南北 200mの範囲に点在する。5～7トレンチは、国府域北西縁辺に位置し、9トレンチは染谷川河岸に近い調査区である。

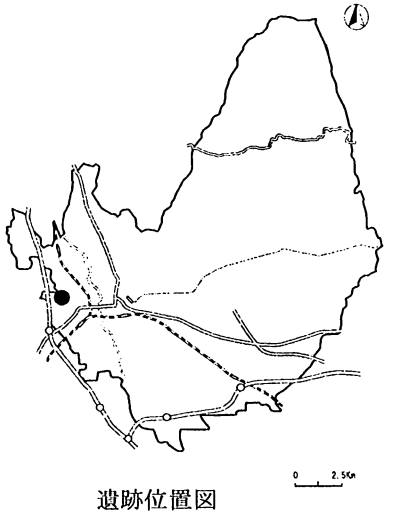
いずれの調査区からも古墳から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が検出された。5トレンチでは 10 世紀頃のものを中心に計8軒、6トレンチからは 11 世紀代を中心に計7軒、7トレンチでは8世紀代のものが3軒、8トレンチでは9・10 世紀代を中心に計6軒、9トレンチでは6世紀および8・9世紀代のものが計5軒検出された。

国府域西側から染谷川にかけての地区ではこれまでも調査が行われており、やはり古墳から奈良・平安時代にかけての集落跡が確認されている。それらの調査から、古墳時代は河岸沿いを中心に集落が展開し、8世紀以降、全体的に住居跡が増加し、集落が広がりを見せるという傾向が看取できる。

今回の調査でもこれまでの調査と同様の傾向が認められた。さらに今回、5・6トレンチのような国府域周縁部において、国府衰退・廃絶期にあたる 10・11 世紀の住居跡が比較的濃密に検出されたことは新たな成果であった。以上のように本調査の成果は、国府域西側の集落の広がりと変遷について、過年度の調査と比較しながら確認できたことである。ただ「国府のマチ」の広がりについては、いまだ不明な部分が多く、今後さらに広い視野から検討を行っていく必要があろう。今後も当地区では調査が継続的に行われていくため、それらの調査成果に期待したい。

3　元総社蒼海遺跡群（4）
(17A130-10)





遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所在地　前橋市元総社町 1713 他
調査期間　平成 17 年 9 月 9 日から
平成 17 年 11 月 25 日まで
担当者　近藤雅順・池田史人
調査面積　約 448 ㎡
調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の成果　本遺跡は推定国府域の西側に位置し、また、調査区の西には国分僧寺、北には国分尼寺が存在する。

検出された遺構は、縄文竪穴住居跡2軒・縄文土坑2基・古墳竪穴住居跡4軒・古代竪穴住居跡 18 軒・竪穴状遺構1軒・溝跡4条・中世溝跡4条・井戸跡1基などである。

縄文住居跡2軒は諸磯c式土器を伴う前期のもので、縄文土坑1基は加曽利E4式土器を伴う中期のものである。近隣の元総社小見Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ遺跡でも縄文前期及び中期の住居跡が検出されており、染谷川左岸の台地上に集落が拡がっていたと考えられる。

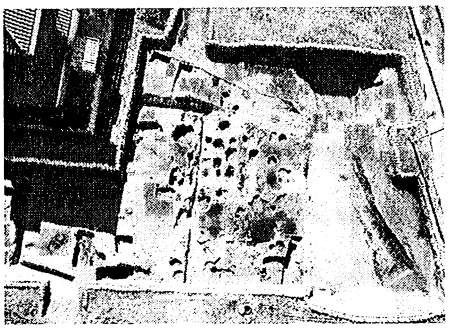
古墳竪穴住居跡4軒は後期のものである。外稜を有する坏や高坏、甕・石製模造品などが出土した。

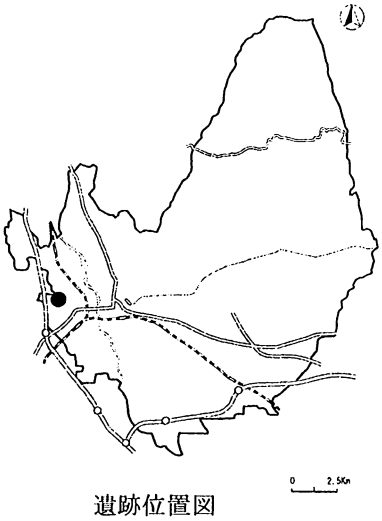
古代住居跡 18 軒のうち、3軒が7世紀から8世紀、7軒が9世紀、3軒が 10 世紀のものである（時期不明5軒）。9世紀に住居跡が増えるのは元総社小見Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ遺跡などと同様な傾向であるが、10 世紀にやや粗になる状況はそれらの遺跡と違ってくる。今後、周辺遺跡の成果を集約しながら集落の変遷を検討していきたい。遺物に関しては、瓦の住居内での使用が多くなる。9世紀中葉と想定される住居跡では、竈の両袖及び燃焼部壁、さらに貯蔵穴の上部に蓋のように瓦を使用している。瓦に関しては、国分僧寺・国分尼寺の衰退と関連させて整理・検討していきたい。

本遺跡地は、上野国府が存在していた所とされ、律令期の政治・宗教・学問の中心地であった。今後、継続調査される元総社蒼海遺跡群の成果を蓄積していき、「国府のマチ」を慎重に解明していきたい。

4　元総社蒼海遺跡群（5）

(17A130-11)





遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業

所在地　前橋市元総社町 1829-1 他

調査期間　平成 17 年 9 月 25 日から
平成 17 年 12 月 21 日まで

担当者　髙橋　亨・髙坂麻子

調査面積　約 1,739 ㎡

調査の経緯　平成 17 年 9 月 5 日付けで、前橋市長　高木　政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

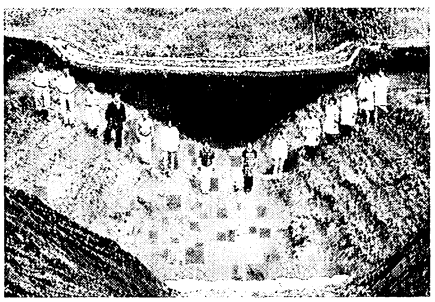
調査の成果　検出された遺構は、竪穴住居跡 23 軒、溝跡 9 条、周溝状遺構 1 基、土壙墓 58 基、火葬墓 2 基、土坑 40 基、ピット 2 基である。住居跡でみると本遺跡は律令期主体であり、上野国府との関連が想起される。大宝律令発布後、国府が各地で整備されつつある中、造営に関わった者たちの居住地として国府周辺には大規模な集落が存在した。推定国府域西北辺に位置する本遺跡周辺にもこのような集落地が広がっていたことは十分に考えられる。

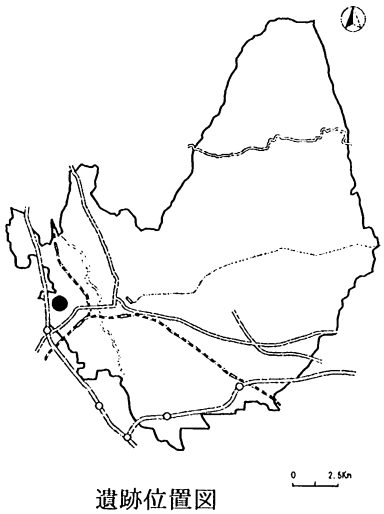
本遺跡の最大の特徴は、60 基の土壙墓が検出されたことである。本墓壙群は、中世蒼海地区において力を持ちつつあった土豪・領主によって構築され、彼らの間には広く庚申信仰や浄土信仰が根付いており、出土した板碑に刻まれた阿弥陀三尊種子などはそのことを如実に示している。出土した人骨は老若男女すべてにわたっていた。また、出土遺物は、五輪塔、板碑、カワラケ、鉄製品、銅銭と多種であり、14 世紀後半から 15 世紀後半にかけてのものと思われる。特に銅銭は、総数 230 枚、34 種類が出土し、すべて渡来銭であった。この墳墓群の東には、方形に巡るW－4 溝跡があり、この溝に伴う「小堂」が存在したとすれば、それは彼らの信仰の先駆けとなる象徴的建物で、その建物の廃絶に伴い、本地域が墓域として聖域化したと思われる。本墳墓群は中世動乱期の不安定な情勢を反映した当時の人々の信仰風景を物語る貴重な遺構である。

今後の調査により、古代・中・近世と永続的な当地の土地利用状況のさらなる解明を期待したい。

5　元総社蒼海遺跡群（6）

(17A130-12)





遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業

所在地　前橋市元総社町 2310-2

調査期間　平成 17 年 9 月 9 日から
平成 17 年 12 月 21 日まで

担当者　大﨑和久・遠藤たか美

調査面積　2，235 ㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて、発掘調査を行った。

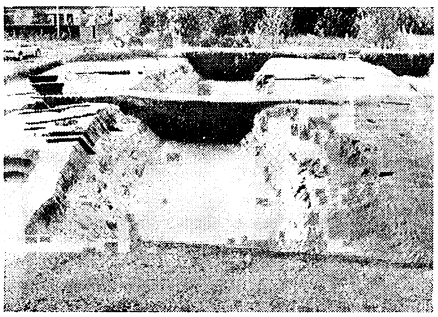
調査の成果　調査の結果、竪穴住居跡 28 軒、竪穴状遺構 3 軒、溝 6 条、土坑 51 基、ピット 50 基、土壙墓 2 基、井戸 5 基が検出された。

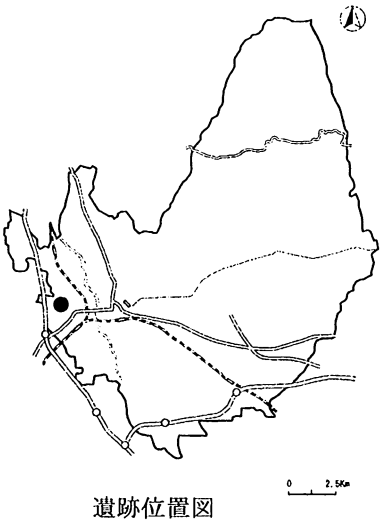
本遺構では、Ⅰ期（～7 世紀前半：律令期以前）の遺構は検出されず、Ⅱ期（7 世紀～10 世紀初頭：律令期）の住居跡が 9 軒、Ⅲ期（10 世紀前半～：律令期以後）が 19 軒の竪穴住居跡が検出された。本遺構での住居跡の移り変りをみてみると、7～8 世紀後半までの住居跡は 1 軒も検出しておらず、9 世紀後半～11 世紀前半までの住居跡が割合を占めている。このことから、7～8 世紀後半までこの周辺は国府や国分寺の土地利用に関する規制があったと考えられる。

本遺構からは、鍛冶工房跡と推定される炉跡や横座が検出された。周辺からも鉄滓や鍛造剥片を多量に含む土坑が 2 基検出されており、鍛冶工房跡との関連性が窺える。また、上幅 11m・深さ 3 m の大規模な溝が検出された。走向方向はほぼ南北に走行し、「薬研堀」の溝である。過年度からの調査により蒼海城の堀跡と考えられる。蒼海城の堀は空堀であるため、底面から雨水等が流れた跡と考えられる、幅 25 ㎝・深さ 8 ㎝の溝が検出された。

出土遺物については、酸化焔焼成の須恵器を中心に高台埦やカワラケが出土し、土師器の遺物はほとんど出土しなかった。また、瓦を構築材として使用している竈が多くあり、軒平瓦をはじめ、多量の瓦が出土した。なかでも、山王廃寺で出土している「天長八」（天長 8 年＝831 年）・「放光寺」銘の文字瓦と同じ手法の瓦が出土している。

6　元総社蒼海遺跡群（7）
(17A130-13)



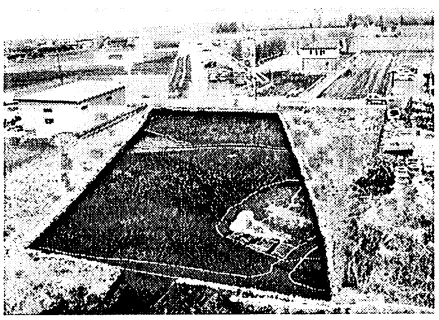


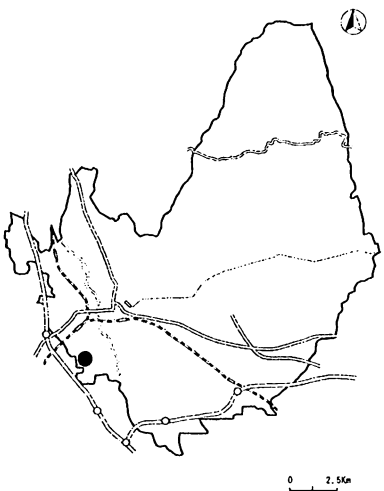
遺跡位置図

事業名　前橋市元総社公民館新築移転工事事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市元総社町 3589
調査期間　平成 17 年 11 月 8 日から
平成 17 年 12 月 19 日まで
担当者　梅澤克典・井上　登
調査面積　797 ㎡
調査の経緯　前橋市元総社公民館新築移転工事事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の成果　２軒の竪穴住居跡が検出された。うち、H-１号住居は住居形状から９世紀末～10 世紀の可能性がある。H-２号住居は出土遺物が殆どなく、また住居の大半が調査区外にあるため、時期・形状ともに不明である。W-１号溝は、昭和 58 年に本遺跡東方の閑泉樋遺跡で発見され、ついで昭和 61 年に本遺跡東に隣接する閑泉明神北遺跡でもその延長が確認された大溝の続きである。溝の覆土上層を浅間Ｂ軽石が覆っていることが確認され、国府北辺を限ると推定された大溝である。雨水等が一時的に流れた痕跡はあるにしても、用水路のような流水の痕跡は認められていない。西方の牛池川に繋がっていたとしても、その水を取り入れるのではなく、むしろ排水の機能があったと考えられる。また覆土中に硬化面等の通路利用の痕跡もなく、純粋に土地を区画するための溝であったと考えられる。

また、今回の調査では大溝の側壁から、竪穴住居のカマド構築材の採掘痕が検出された。採掘痕は幅 70cm ほどの長方形の単位で認められ、総社砂層上層の硬質部分（凝灰岩質砂岩）を切り出している。W-１号溝が国府北縁を区画する溝と仮定すると、カマド構築材の採掘の時期は、おそらく 10 世紀以降と考えられる　また、W-２号溝は、W-１号溝とほぼ平行する東西方向の溝である。覆土中には浅間Ｂ軽石が多量に含まれるため、中世の構築と考えられる。本遺跡の南には中世の八日市場城があり、東には村山城がある。W-２号溝も恐らく中世段階に、これらの城館に関連して開削されたと考えられる。

7　川曲柳橋Ⅲ遺跡(17A133)





遺跡位置図

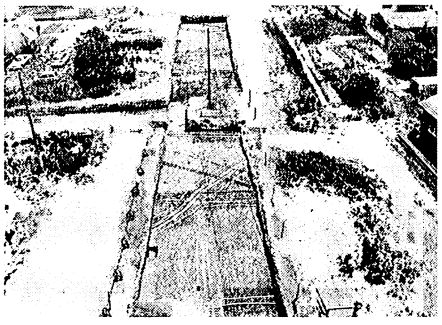
事業名　都市計画道路改良事業
所在地　前橋市川曲町 178
調査期間　平成 18 年 1 月 20 日から
平成 18 年 3 月 24 日まで
担当者　鈴木雅浩・須藤健夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・権田友寿・金子正人（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　1,200 ㎡
調査の経緯　都市計画道路新前橋川曲線（Ⅲ期）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を実施した。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が行った。
調査の成果　本調査では、As-B 軽石に覆われた平安時代の水田跡と As-B 軽石層を切り近世から現代まで使用されたと考えられる池２カ所と溝５条を検出した。

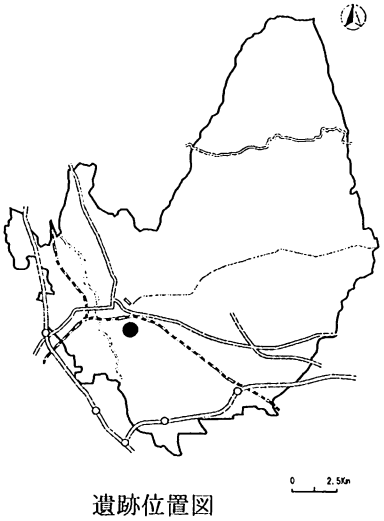
本遺跡は、これまでの周辺遺跡の状況と様相が異なり調査区北側に前年度の調査により報告されている畦畔の続きをわずか２条検出するにとどまった。

なお、埋め戻し前に調査区中央に南北の試掘トレンチを入れ下層の状態を調査した。その結果、As-C 軽石純層より下層において大小３カ所の落ち込みを確認した。いずれの落ち込みにも礫と砂が堆積しており水が流れた跡と思われ As-B 軽石降下以前から谷地状になっていたことが確認できた。

以上の調査結果を踏まえ、本調査区は昨年度調査済みの北側や南側より標高が低く、水が溜まりやすい場所で水田耕作には不向きで、いわゆる溝田（どぶた）として使用していたか、又は馬の足跡が多数検出していることから、馬などの水飲み場になっていた可能性が考えられる。

8　六供遺跡群(17H39)





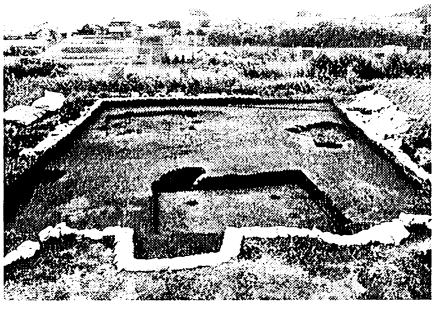
遺跡位置図

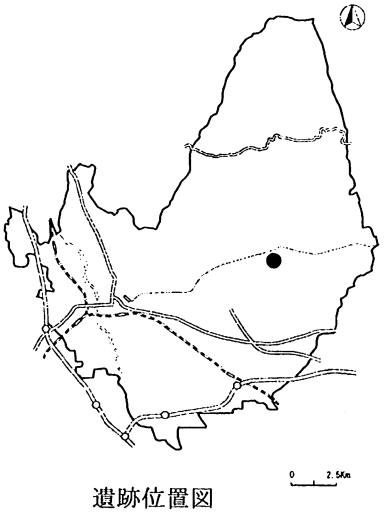
事 業 名　六供土地区画整理事業
所 在 地　前橋市六供町 698 他
調査期間　平成 17 年 5 月 24 日から
　　平成 17 年 8 月 11 日まで
担 当 者　髙橋　亨・高坂麻子
調査面積　約 1,517 ㎡
調査の経緯　平成 17 年 5 月 6 日付けで、前橋市長　髙木　政夫より前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の成果　本遺跡からは竪穴住居跡 2 軒、溝跡 14 条、水田跡 24 枚、畦畔 16 本が検出された。住居跡はいずれも本遺跡北部分のA－1 区から検出された。本遺跡は南北に長く、北から南および西から東へ緩やかに下がる。A－1 区からは As-B 純層が検出されないことから、旧来より微高地であり、居住地として利用されていたと推測される。H－1 住居跡は 6 世紀後半～末に属し、当該期の住居跡は過去の六供遺跡群の発掘調査からは検出されていない。この時期は天川二子山古墳の築造期とほぼ一致し、居住地分布がこの古墳一帯に広がっていた可能性がある。

水田跡は、天仁元年(1108 年)浅間山の噴火によって降下したテフラ(As-B)により埋没した平安時代後期の水田跡である。いずれの畦畔も小規模で坪境畦畔と考えられるのは確認できなかった。調査区域の関係で、四方を畦畔で囲まれた水田面は検出されなかった。本水田跡は北西から南東に緩やかに下がる土地を利用して、配水を行っていたことが窺える。本遺跡中央部分のA－3 区の As-B 直下層からイネのプラントオパールが検出されており、稲作が行われていたことが実証された。

過去に行われた発掘調査との関連でみると、北西から南東に向かって東から集落群、水田、集落群、水田と土地利用されている。その一部分として本遺跡は微高地である北部分が集落群、南側が水田として利用されていたことがわかった。

9　天神風呂遺跡(17 I 2)





遺跡位置図

事 業 名　前橋市茂木町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
所 在 地　前橋市茂木町 559-1
調査期間　平成 17 年 7 月 15 日から
　　平成 17 年 8 月 3 日まで
担 当 者　大﨑和久・遠藤たか美
調査面積　387 ㎡
調査の経緯　個人より前橋市茂木町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の成果　調査の結果、縄文時代の前期黒浜・有尾式期・諸磯式期・中期焼町式期の集落や土器片が検出され、古墳時代～奈良・平安時代に至る集落跡も分布している。この事からも、当地区は遺跡の濃密な地区であった事が分かる。

今回の調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代の竪穴住居跡 5 軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡 1 軒、陥し穴 1 基、土坑 5 基、溝跡 1 条が確認できた。

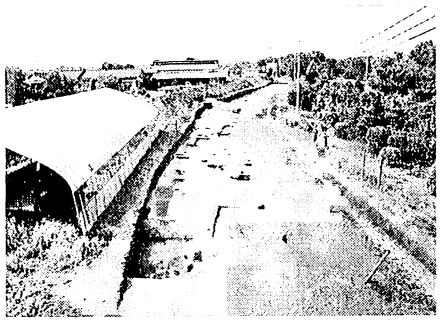
縄文時代の遺構については、竪穴住住居跡では、住居跡の中心部近くに、多数の石が敷き詰められる様に出土した集石土坑が検出された。中から数点の土器片が出土した。土器片は、深鉢と浅鉢の破片であり縄文時代中期中葉と考えられる。また、狩猟のために使われた、陥し穴が 1 基検出された。平面形は楕円径を呈し、底に 2 基のピットが確認された。

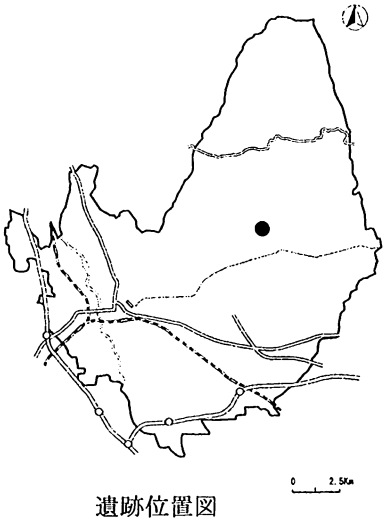
古墳時代の竪穴住居跡は 5 軒で、須恵器の高坏や箆磨きを施す土師器の小甕や小壺、小形の甑、長胴甕や低部が平底でやや突出気味の壺などが出土した。時期は 5 世紀中頃から 6 世紀後半までと考えられる。

奈良・平安時代の竪穴住居跡は 1 軒のみで、須恵器の高台埦や墨書土器、灰釉陶器の高台埦が出土した。時期は、9 世紀後半と考えられる。

限られた範囲での調査のため、遺構相互の関連や集落の構成について詳しく捉えることができなかった。今後、周辺の調査成果の蓄積を待ち更に検討していきたい。

10　小坂子一木峯遺跡Ⅱ(17C36)





遺跡位置図

事 業 名　小坂子町地内最終処分場西側生活道路(市道 06-475)改良事業に伴う小坂子一木峯遺跡Ⅱの発掘調査

所 在 地　前橋市小坂子町 1827-23

調査期間　平成 17 年 5 月 10 日から
平成 17 年 5 月 30 日まで

担 当 者　大﨑和久・遠藤たか美

調査面積　768 ㎡

調査の経緯　前橋市小坂子町地内の道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を実施した。

調査の成果　本遺跡は赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に広がる傾斜地で、すぐ東は谷地部になる舌状台地の東側に位置する。

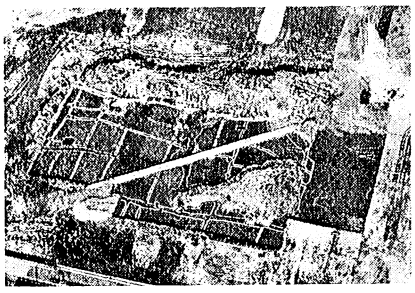
縄文時代の遺構は本遺跡では検出されず、遺物は遺構外から前期の諸磯ｃ式の土器片３点と打製石斧２点が出土した。平成 16 年度調査の「小坂子一木峯遺跡」では、遺構は後期後葉の土器片が比較的まとまって出土した竪穴状遺構１基と土坑１基が検出され、遺物は遺構外から前期の諸磯ｂ及びｃ式を中心に土器片 45 点が出土した。竪穴状遺構に関しては不明瞭な部分が多いが、遺物の出土から、この台地部で縄文時代前期及び後期のなんらかの生活が想定される。

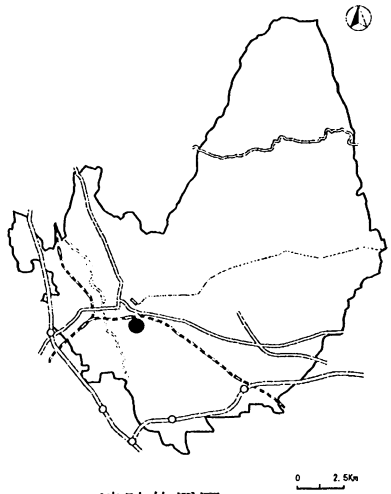
奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡１軒を検出しているが、この住居跡は 16 年度の調査で検出された住居跡の続きである。底部に糸切り痕か残る須恵器の坏片や、「コ」の字口縁の土師器甕の残片が出土していることから、９世紀中頃と考えられる。

その他に、溝跡２条が検出された。１つは東西方向に走向する浅いＵ字形のＷ－１号溝跡で、１つは南北方向に走向する逆台形のＷ－２号溝跡である。両溝跡とも埋土に As-B 軽石を僅かに含んでくることから、時期は As-B 降下以降と考えられる。

「小坂子一木峯遺跡」では８世紀後葉から９世紀中葉と想定される竪穴住居跡が８軒検出されており、本遺跡では竪穴住居跡の検出がなく、舌状台地の東縁部に位置するということから、本遺跡地がこの集落の北東辺域であり、集落外になることも考えられる。

11　文京町No.1 遺跡(17H40)





遺跡位置図

事 業 名　(仮)けやきウォーク前橋新築工事

所 在 地　前橋市文京町２－１－53

調査期間　平成18年２月６日から
平成18年２月25日まで

担 当 者　小嶋　尚

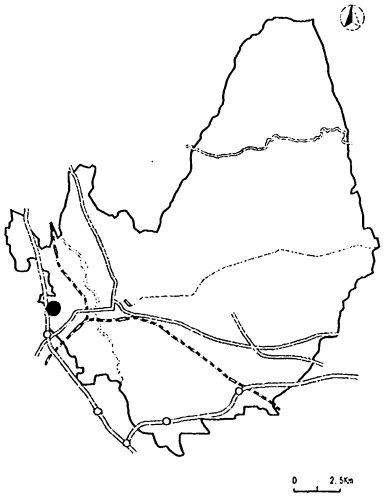
調査面積　3,300 ㎡

調査の経緯　既存の建物解体にあたり、立会調査を実施したところ、店舗建設予定地南側部分から平安時代の水田跡を検出した。よって、遺跡地であることが確認されたため、店舗建設前に発掘調査を行った。

調査の成果　本調査では、As-B 軽石に覆われた平安時代の水田跡が、調査区のほぼ全域にわたり合計 19 面検出され、残存状況は比較的良好であった。水田確認面は北から南へ緩やかに低くなっており、約 10m 間隔で南北間が 2.8 ㎝の比高差がある。調査区中央部付近は谷状にやや下がっており、水田面と比較すると約 10 ㎝低くなっている。利根川西岸の川曲柳橋Ⅱ遺跡では、同様な水田面が検出され、その地形の下位からは As-C および Hr-FA が堆積した埋没谷が検出されているが、本遺跡では水田面を覆うＢ軽石の堆積厚が均一であることから、後世の沈下の可能性もあり判然としない。調査区東側から耕作痕が検出され、その形状から鉄製農具(鋤)により、南側から耕作を行ったと考えられる。なお、遺物は検出されなかった。畦畔の走向軸は、ほぼ、東西南北になっており、調査区内を横断、縦断する主な畦畔は、南北９条、東西７条である。

本遺跡では、表層の条里型地割との比較、検討により、坪境の可能性がある畦畔が交差する形で２本検出した。遺跡周辺は市街地化していることからも調査事例は多いとはいえないが、今後の調査事例の増加により、検出畦畔の座標値を使用し、より精度の高い条里地割の検証、前橋台地南部や現利根川西岸との比較、中小河川や道と条里制地割との関連など検討すべき課題が残されている。

12　元総社弥勒遺跡(17A40)



遺跡位置図

事業名　民間開発による宅地造成
所在地　前橋市元総社町1239番6
調査期間　平成18年2月6日から
　　平成18年2月15日まで
担当者　後藤俊継・小嶋尚・大崎和久・池田史人
調査面積　500㎡

1　位置と環境

前橋の地形・地質の特徴は、大きく3地区に区分される。赤城山南麓に広がる火山性斜面、古利根川の流路となった広瀬川低地帯、前橋・高崎一帯に広がる前橋・高崎台地に分けられる。元総社弥勒遺跡が立地する前橋・高崎台地は、約24,000年前浅間山の爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層から成り立っている。台地西には榛名山がそびえ、その榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し相馬ヶ原扇状地を形成、台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。

元総社弥勒遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西約4Kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。遺跡地西側には関越自動車道路が南北に走り、南側には県道前橋・安中・富岡線が近接する。遺跡地は都市計画区域の市街化区域内で住宅建設など開発が進んでいるが、周囲に農地も多く存在している地区である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野区域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、中世には長尾氏により国府の掘り割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査により、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

総社・元総社地区には、古墳時代の遺跡である、総社古墳群が存在する。総社古墳群を代表するもとして、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた集石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室を持つ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳、蛇穴山古墳がある。また、白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（方光寺）がある。このことから、この時代の仏教文化と古墳文化の併存しながら機能している様子を窺える。

奈良・平安時代に至ると、律令期の国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府が置かれている。また国分僧寺、国分尼寺の建設もあり、この地域が古代の政治、経済、文化の中心的な位置づけが見受けられる。

中世に至り、永享元年(1429年)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有しており、県内で最古級に位置づけられる。また、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在のこの地区の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

元総社・総社地区は、このように歴史的に重要な役割を果たしている。特に元総社地区は、国府が存在し、現在行っている元総社蒼海土地区画整理事業により発掘調査が進んでいる。多くの集落跡や国府中心部に向かう溝跡等確認がされているが、手つかずの区域もあり、上野国府や蒼海城の解明には至っていない。今後の調査の進捗により、新たなる情報が得られると考えられる。

3　調査に至る経緯

開発地は、平成17年度に周知の埋蔵文化財包蔵地となった。これは周囲の試掘調査で、遺構や遺物が検出し、情報を得られたため、新たに拡大したものである。開発地は舗装や掘削した部分もなく、露天資材置き場として使われていた。また隣接地が、平成元年、7年度の発掘調査で集落跡が検出している。以上のことから、埋蔵文化財が存在し、開発前には確認調査が必要であること考えられた。開発事前照会も数社から問い合わせをあり、慎重に対応を行った。開発内容が宅地分譲と決定し、開発者と協議の上、平成18年1月19日～20日確認調査を実施した。その結果、住居跡15軒（奈良・平安時代）、土坑3基（奈良・平安時代）、遺物等を検出した。開発工事には住宅建設だけでなく、道路も含まれていたため、道路部分の発掘調査は避けられない状況に

なった。平成18年1月23日県へ文化財保護法93条の届出をした。県の回答を待つ間、開発者、土地所有者と協議を続け、最終的に発掘調査の合意が得られた。

4　調査の経過

調査は、平成18年2月6日に開始、重機（バックホウ0.7㎥）により、表土掘削を行った。表土を取り除いた後、As-B混土層を確認したので、人力による精査をした。重機による掘削は、予定より早く進み1日で終了したが、調査区全体のプラン確認は終了しなかった。それでも住居跡30軒確認できた。また住居跡の重複も多かった。2月7日調査区西側から遺構を掘り下げ始めた。重複している住居跡が多いため、サブトレンチを入れ、切り合いを確認した。遺構の件数が多く、調査期間が限られているため、2月9日から整理作業に入っている各現場担当者にも入ってもらい作業を進めた。調査期間中好天にも恵まれ、2月13日調査区の遺構の掘り下げが終了した。2月14日遺構並びに調査区全景写真の撮影を行った。2月15日測量を行い、発掘調査を終了した。

5　調査の成果

調査の結果、住居跡37軒、土坑4基、井戸1基検出した。住居の時代は9～10世紀が中心であったが、古墳時代の住居跡も3軒検出した。出土遺物は、土師器・須恵器を始めとして多種多様なものが、コンテナバット20箱出土した。遺物の多くが土師器・須恵器であった。しかし緑釉陶器20片、円面硯1片、布目瓦50片、鉄器10片、鉄滓10片、砥石3片、縄文土器（勝坂・加曽利E・加曽利B式土器）20片、石器20片、古墳時代前期の土師器（台付甕、壺）30片、滑石製臼玉1点、馬歯、馬骨も出土した。

○古墳時代の住居跡

H-25号　竈の検出は出来なかったが、調査区北壁に焼土・炭化物が認められ、検出した住居の形から東竈と推定される。壁は総社砂層を堀込み明瞭に検出できた。床面は平坦で部分的に堅緻、地山（総社砂層）を床面として使用していたものと考えられる。H-26号と重複していた。

H-30号　東に竈を検出する。竈の両袖には、構築材にとして長胴甕・粘土を使用していた。壁は総社砂層を堀込み明瞭に検出できた。床面はほぼ平坦で堅緻、地山（総社砂層）を床面として使用していたものと考えられる。また、滑石製の臼玉1点が住居西側で出土している。

H-40号　東に竈を検出する。袖は地山を削り出して構築していた。燃焼部中央に凝灰岩を設置する。その上に粘土を使って、丸底で体部の深い土師坏を被覆して支脚とし、器厚の厚い甕をかけ使用していたと思われる。壁は北側で黄褐色土層（総社砂層）を堀込んだ様子が明瞭に検出できた。床面は地山面を使用したと考えられるが、明確な堅緻面は確認できなかった。

○奈良・平安時代の住居跡等　竈の検出があった住居跡を中心に下記のとおりである。

H-1号　東に竈を検出する。壁は黒色土を堀込んで作られていたが、明確に検出できた。床面は堅緻面で、竈前面部には灰層も検出した。黒色土層（地山）を使用した貼り床を確認した。

H-2号　H-1に北半分を切られていた。東側に竈、壁は黒色土層の中から明確に検出した。床面は竈前面より、やや広がりをもった堅緻面を持ち、黒色土を使った貼り床を確認した。

H-3号　調査トレンチ南壁に竈を検出する。竈はよく焼け赤化、灰層も良好にみられた。竈内より高台椀等の土器を多数採集した。貼り床を確認した。

H-7号　東側に竈を検出する。竈下部より、灰層を4～5㎝の厚さで確認する。両袖部から高台腕がそれぞれ出土していることから、補強材として使用されていることも推測される。東及び西壁は明瞭に検出、床は全体にわたり貼り床が認められた。貼り床の厚さは、1～2㎝程度あり、床下土坑4基検出した。出土遺物も多数採集した。

H-11号　東壁のやや南寄りに竈を検出する。わずかに灰層を確認する。竈内からは高台椀が出土する。壁は、黄褐色砂層（総社砂層）のため、撹乱を受けた南壁以外は明瞭に検出した。貼り床はあまり確認できず、竈前面に堅緻面を検出しただけであった。

H-16号　東側に竈を検出する。竈前面を中心に黒色土を利用した貼り床があり、床全体に亘り堅緻面が存在した。

H-18号　東側に竈を検出する。竈は灰層が厚く堆積していた。貼り床は薄いが、竈前面から北東部にかけ確認できた。

H-19号　東側に竈を検出する。灰層、焼土層が顕著に認められる。焚き口の右より高台椀の完形土器が出土する。壁は北西部で撹乱を受けていた。床面は全体にわたり、貼り床が存在し竈前面では顕著であった。

H-26号　住居東壁の中央付近に竈を検出する。竈の右袖には、凝灰岩の切り石を使用する。燃焼部はよく焼けていた。壁は黄褐色土層（総社砂層）を掘り込んでおり、北及び東壁は明瞭に検出したが、南及び西壁は不明瞭であった。床面は平坦で部分的に堅緻、竈前には焼土や灰層の流失を確認した。また80㎝ほど掘り込んだ円形の貯蔵穴を南東部に確認、土器片もあり採集した。

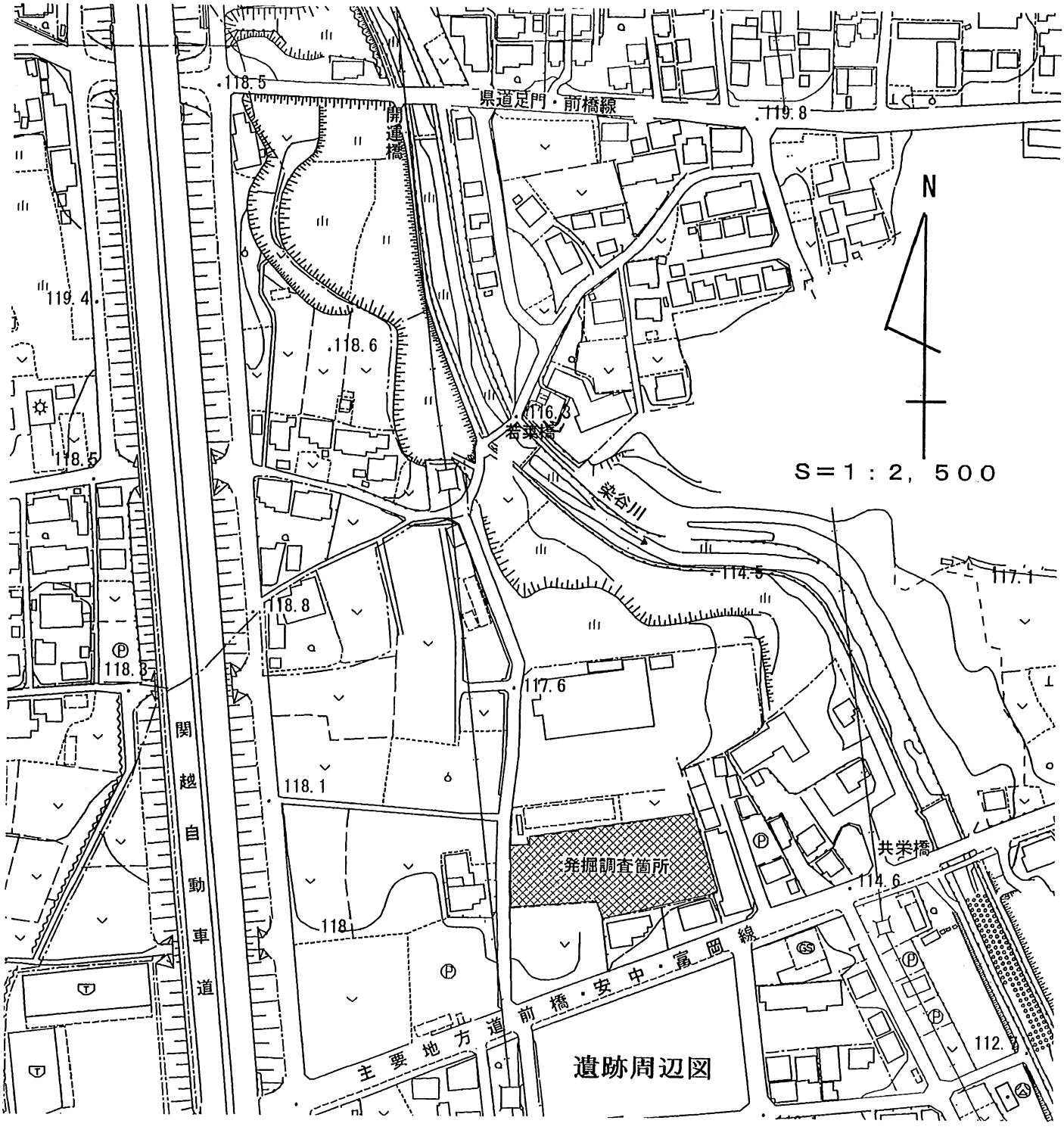
H-27 号　東側に竈を検出する。竈内から須恵器の高台腕を出土する。床面は平坦で竈前に堅緻面が認められ、粘土や灰層の流出も確認する。

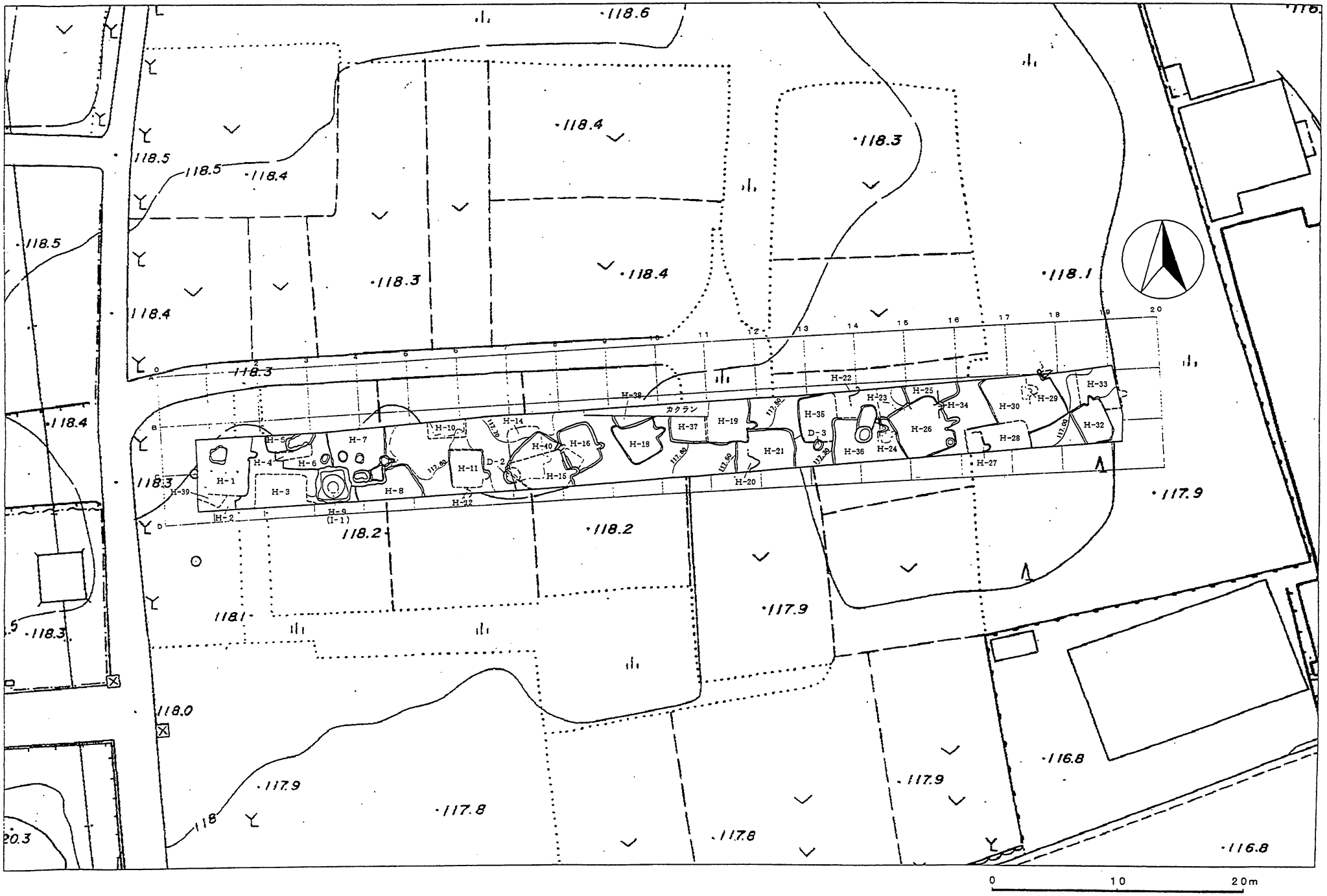
H-32 号　北側に竈を検出する。壁は黄褐色土層（総社砂層）を掘り込んでいるため、明瞭に確認できた。床面は、平坦で地山（総社砂層）を使用面としており、部分的に堅緻面を検出した。

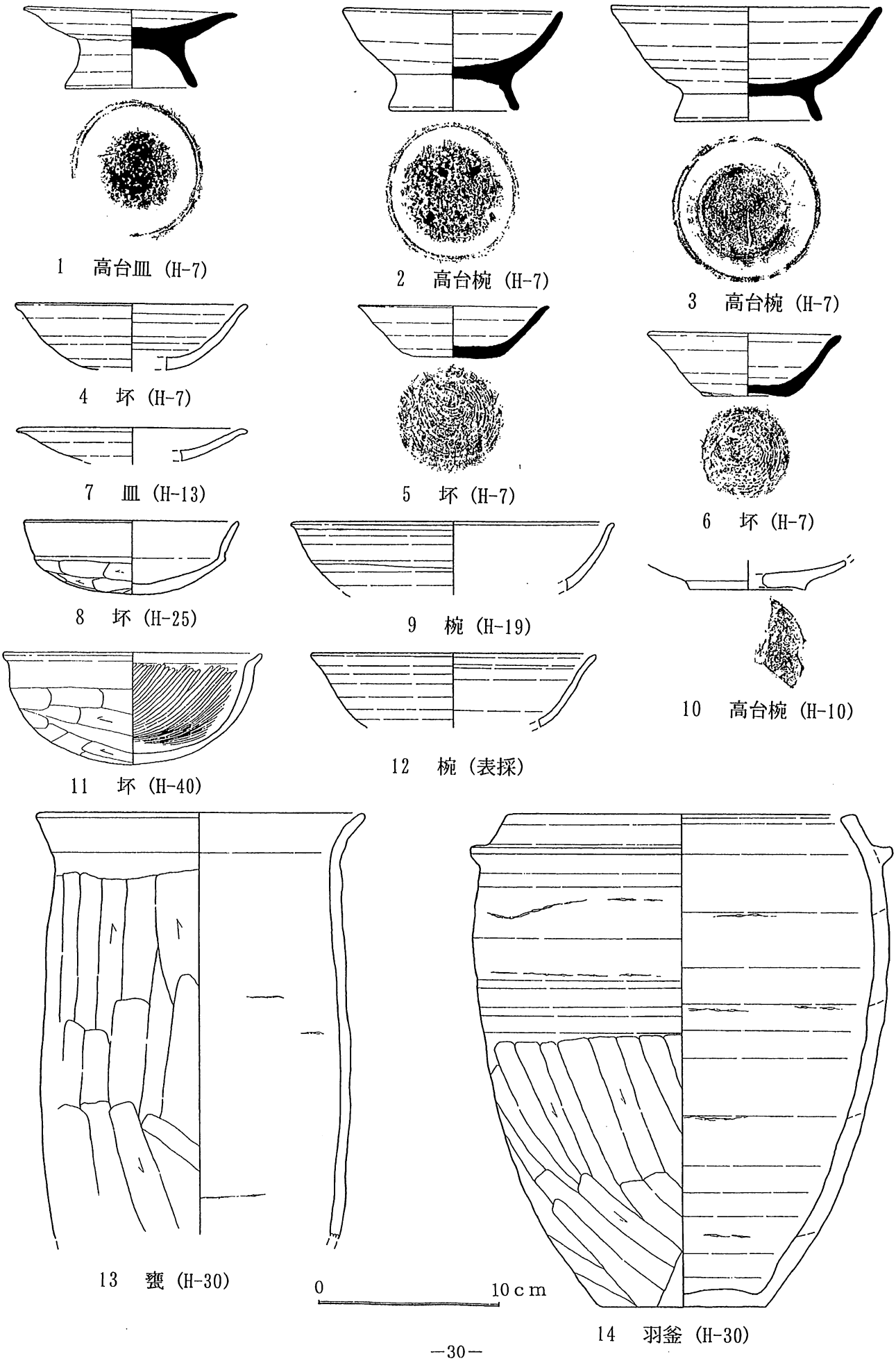
H-33 号　東側に竈を検出する。調査区の東境界部分に位置しているため、トレンチ東壁に袖石を確認する。右袖には凝灰岩の切石、左袖には安山岩が使われていた。平坦で堅緻な貼り床をもっていた。

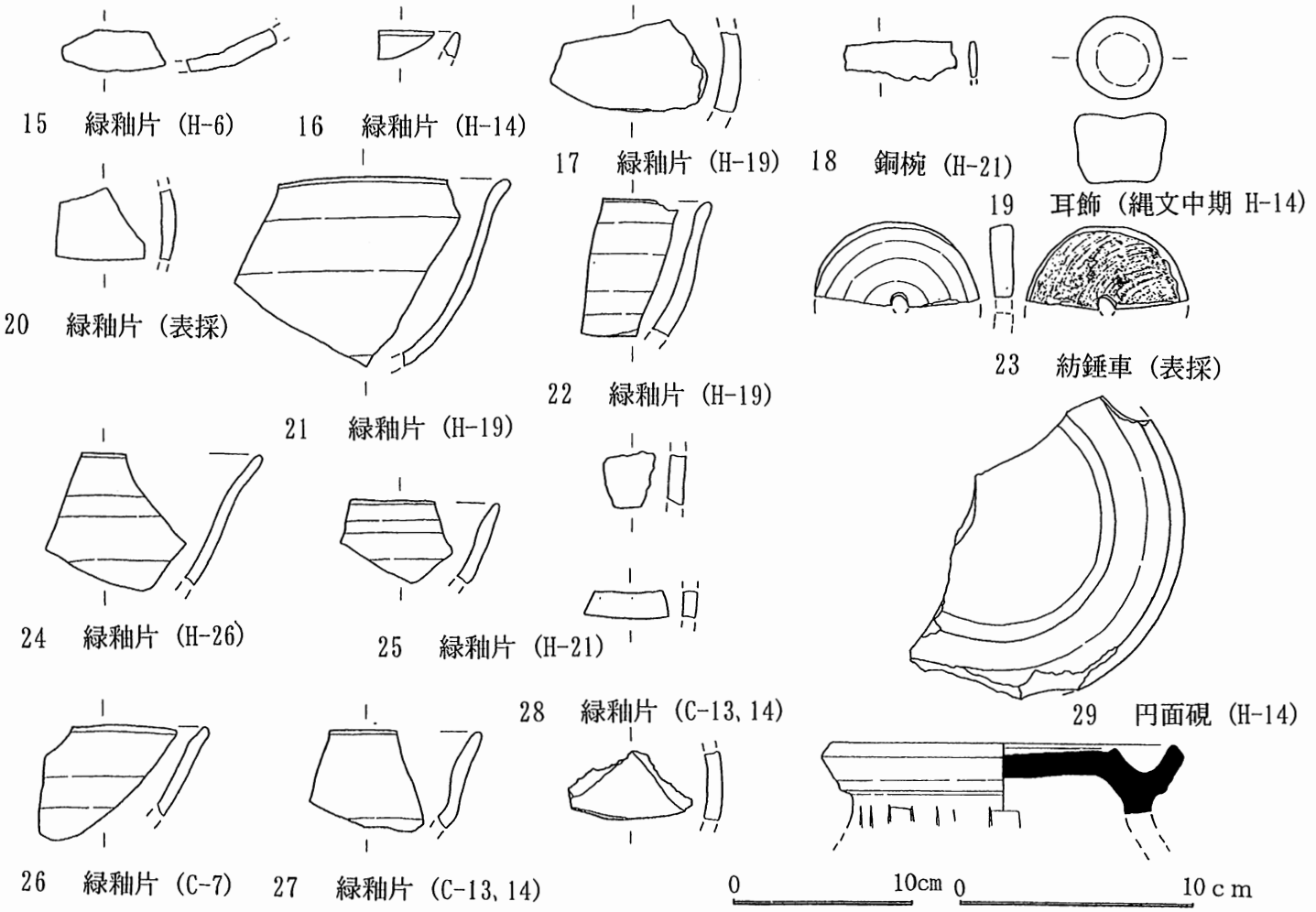
I-９号　井戸を検出する。壁は急傾斜に立ち上がり、馬歯や馬骨を数点出土する。馬骨は長さ 20～25 cmであった。上部から多く出土する。

今回の調査では、９～10 世紀を中心とした住居跡が重複をもちながら確認された。平成元年度に行われた隣接地の調査でも同様な結果が得られている。限られた調査で全容をつかむとは言えない。周辺遺跡の調査記録と併せて、国府周辺域の居住地として、形成された集落の１つと考えられる。国府域や周辺部の解明は、今後の調査にかかっている。




118.6
118.5
118.4
118.3
118.1
117.9
118.2
118.0
117.8
116.8
カクラン
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
(I-1)
H-10
H-11
H-12
H-14
H-15
H-16
H-18
H-19
H-20
H-21
H-22
H-23
H-24
H-25
H-26
H-27
H-28
H-29
H-30
H-32
H-33
H-34
H-35
H-36
H-37
H-38
H-39
H-40
D-2
D-3
0
10
20m

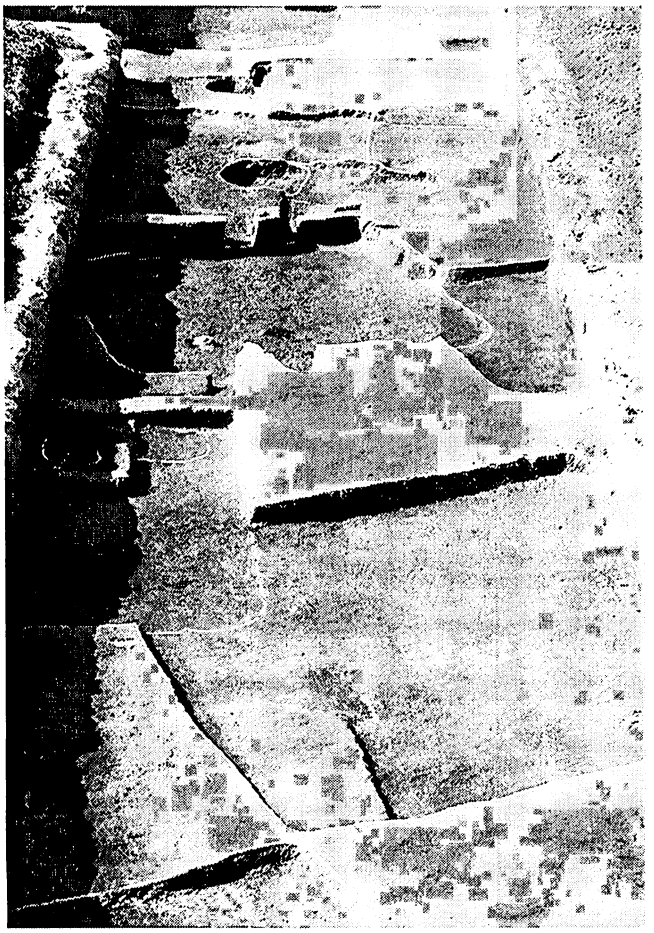

1　高台皿（H-7）
2　高台椀（H-7）
3　高台椀（H-7）
4　坏（H-7）
7　皿（H-13）
5　坏（H-7）
6　坏（H-7）
8　坏（H-25）
9　椀（H-19）
10　高台椀（H-10）
11　坏（H-40）
12　椀（表採）
13　甕（H-30）
0
10cm
14　羽釜（H-30）


15 緑釉片（H-6）
16 緑釉片（H-14）
17 緑釉片（H-19）
18 銅椀（H-21）
19 耳飾（縄文中期 H-14）
20 緑釉片（表採）
21 緑釉片（H-19）
22 緑釉片（H-19）
23 紡錘車（表採）
24 緑釉片（H-26）
25 緑釉片（H-21）
28 緑釉片（C-13、14）
29 円面硯（H-14）
26 緑釉片（C-7）
27 緑釉片（C-13、14）
0 10cm
0 10cm

発掘調査の風景

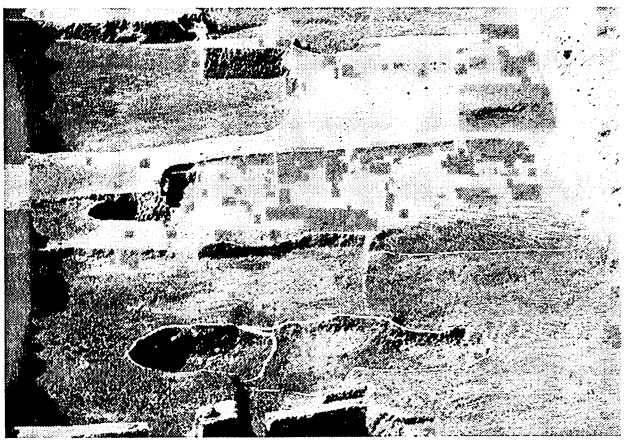
調査区全景（東から）

第７号住居跡の出土土器（南から）

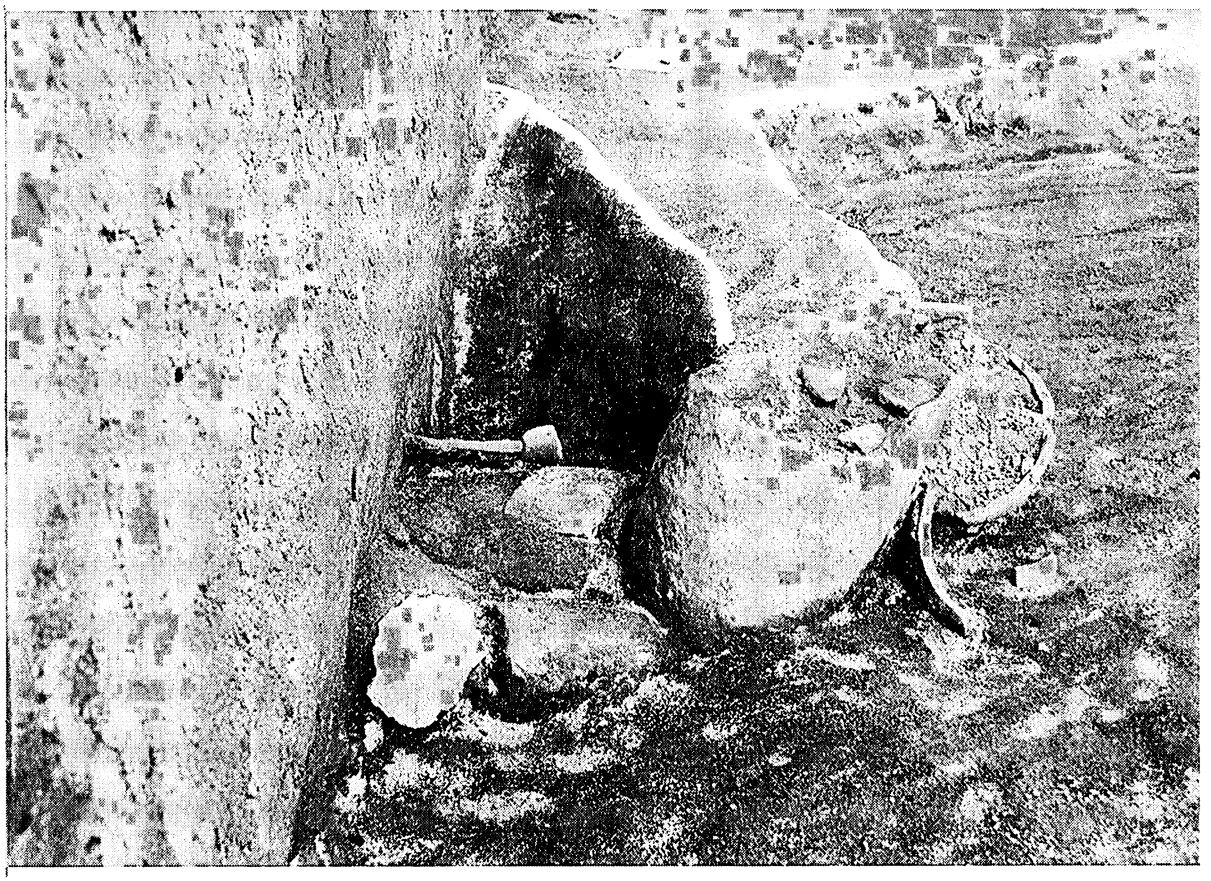


手前から第32、30、28、27、26号住居跡（東から）

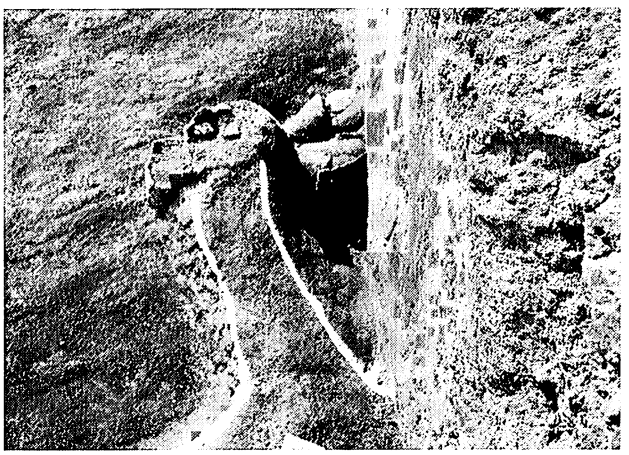
第７号住居跡（南から）



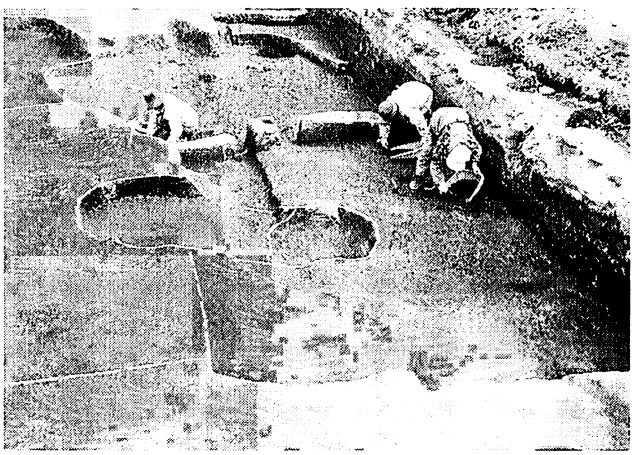
第35、36号住居跡のカマド（東から）



第30号住居跡のカマド（西から）



第30号住居跡のカマド（東から）



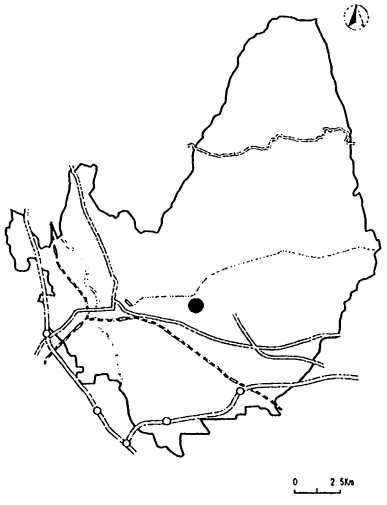
手前から第36、26、25号住居跡（西から）

手前からD-2、第15、40、16号住居跡（西から）

第28、30、32号住居跡（西から）

13 女　堀

遺跡名　女　堀
所在地　①東西路線　単管５号
　　堀之下町 327-4
　　②南北路線　単管５号
　　堀之下町 342
　　③南北路線　単管６号
　　堀之下町 407-3
発生原因　下水道建設



遺跡位置図

調査期間　①東西路線　単管５号
　　平成 17 年６月７日
　　②南北路線　単管５号
　　平成 17 年７月１日
　　～６日
　　③南北路線　単管６号
　　平成 17 年６月 13 日
　　～14 日
調査面積　①135m×１m＝135 ㎡
　　②100m×１m＝100 ㎡
　　③130m×１m＝130 ㎡
種　　類　中世用水路跡
担 当 者　鈴木雅浩・小嶋尚・後藤俊継

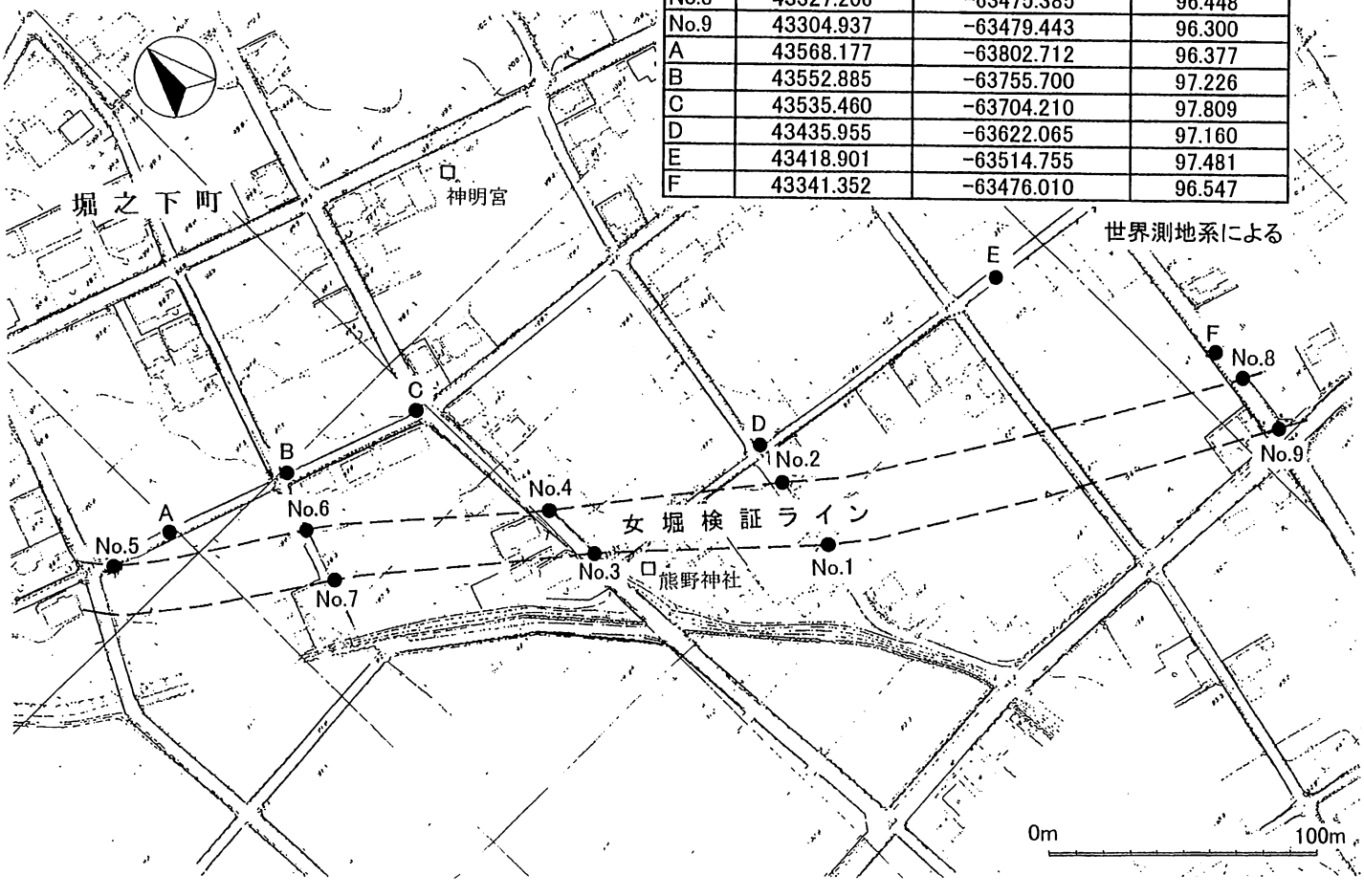
調査の経緯　昨年度に引き続き、堀之下町地内の下水道工事区で中世用水路である女堀の通過地点を調査した。調査は幅１m、深さ 1.8mの下水道掘削溝で限定されていたが、下水道管埋設予定地の３路線から女堀を検出した。

①　東西路線　単管５号
地山の水性堆積ローム土を切り込んで形成されていたため明白に検出できた。標高 94.7mから 94mの高さで確認でき、底面高は 93.0m前後になりそうである。

②　南北路線　単管５号
確認できた範囲で堀の南側下幅が 19.6m、上幅が 22.2m、北側下幅が 18.8m、上幅が 21.7m、標高 94mから 95.6mの高さで確認でき、底面高はさらに 1.1m以上下がると思われる。

③　南北路線　単管６号
確認できた範囲で堀の南側下幅が 21m、上幅が 22.8m、北側下幅が 21.1m、上幅が 22m、標高 94.9mから 95.5mの高さで確認でき、底面高はさらに 1m以上下がると思われる。

点名	X座標	Y座標	Z座標
No.1	43392.389	-63631.155	96.376
No.2	43420.801	-63626.456	96.811
No.3	43450.866	-63695.102	94.961
No.4	43474.834	-63696.329	95.999
No.5	43573.923	-63826.461	95.852
No.6	43532.627	-63765.179	96.493
No.7	43511.651	-63771.012	95.862
No.8	43327.206	-63475.385	96.448
No.9	43304.937	-63479.443	96.300
A	43568.177	-63802.712	96.377
B	43552.885	-63755.700	97.226
C	43535.460	-63704.210	97.809
D	43435.955	-63622.065	97.160
E	43418.901	-63514.755	97.481
F	43341.352	-63476.010	96.547



14　田口冠木遺跡出土埴輪について

1　遺跡の概要

田口冠木遺跡は、前橋市田口町309-1、309-2に所在する。田口町は市の北部に位置し、渋川市域で吾妻川と合流した利根川が、赤城・榛名山麓間の狭小部を抜け関東平野へ流れ出る最奥部の左岸にあたる。遺跡は赤城火山山体崩壊により形成された流山「片石山」の東麓に位置する。

民間開発による宅地造成に伴い、平成16年12月24日～28日、平成17年１月11日～31日にかけて調査が行われ、４基の古墳が確認された。すべて円墳で、そのうち３基の古墳（１号墳・３号墳・４号墳）の調査が行われた。１号墳は『上毛古墳綜覧』に南橘村第23号墳として記載されている。

2　遺構の概要

（1）１号墳

１号墳は今回確認された４基の古墳の中で最大規模を有する。調査の結果、墳丘は２段築成の円墳で、基壇を含めた墳丘の規模は直径18.5m、高さ3.8mを測る。墳丘の築成は、榛名山二ツ岳火山灰（Hr-FA、６世紀初頭降下）堆積面まで地山を削り出し整地の後、盛り上げられている。墳丘上段斜面に川原石による葺石が認められた。

主体部は、河原石を利用した自然石乱石積みの袖無形横穴式石室である。南南東方向に開口し、石室の長さは698cm、断面形状は幅狭の台形状で、奥壁側で高さ165cm、上幅53cm、下幅90cmを測る。この古墳の主体部は、控え積みの手法を採っていることが特徴である。

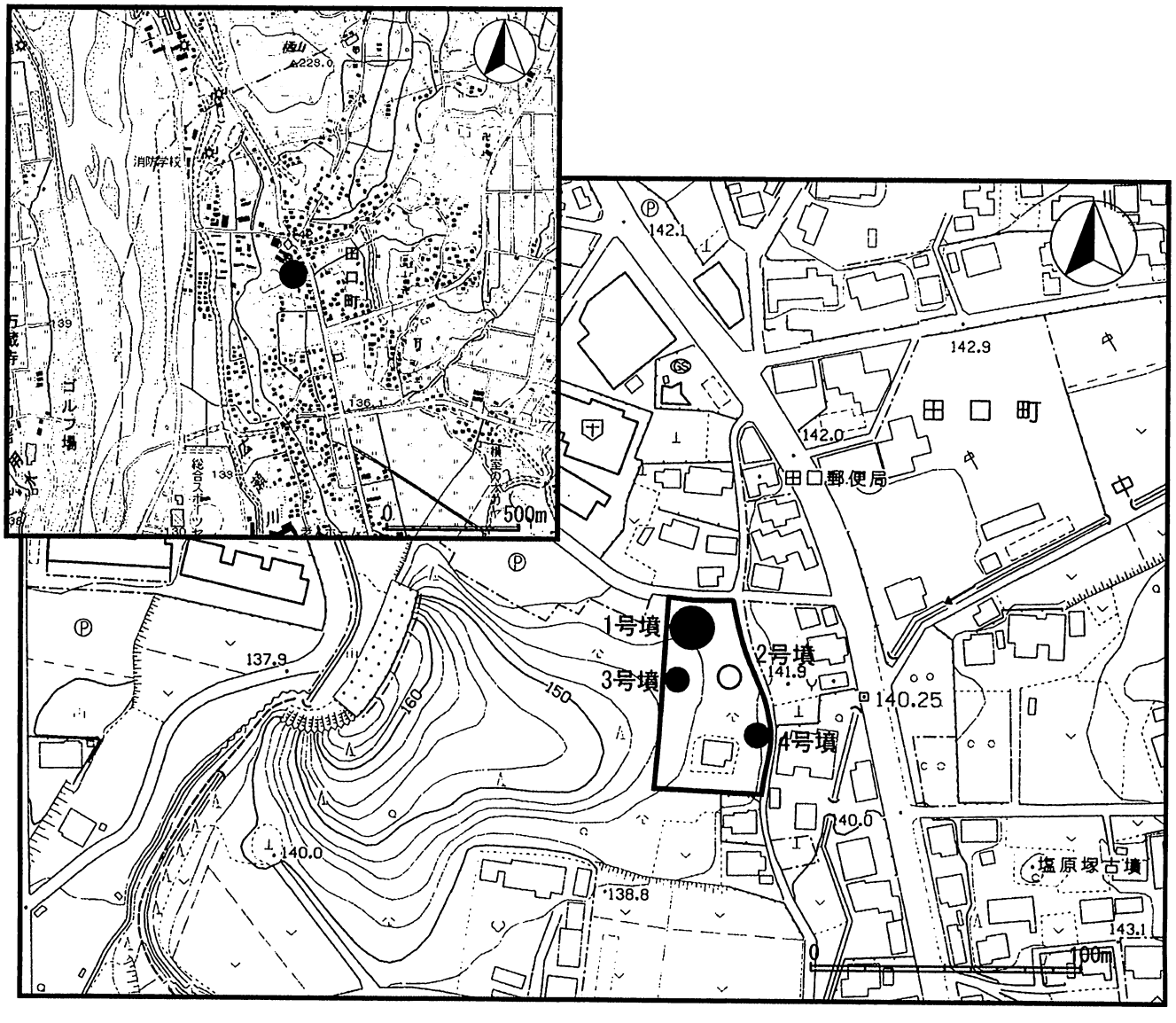


図1　田口冠木遺跡周辺図

（2） 2号墳

2号墳は調査直前に削平されてしまい、消滅した。

（3） 3号墳

2号墳の墳丘は南北8.4m×東西6.4mの長円形を呈する。葺石は後世の削平により失われているが、墳丘に入れたトレンチで墳丘裾部に葺石根石が確認されていることから、墳丘の全周に葺石があったことが推定される。墳丘の築成は1号墳と同様、榛名山二ツ岳火山灰堆積面まで地山を削り出し整地の後、盛り上げられている。

主体部は河原石を乱石積みにした小石槨で180cm×50cmを測る。

（4） 4号墳

4号墳は東約半分を道路によって削平され、南側は建物基礎据付の際に大きく削り取られていたが、径11.5m程の円墳であったと推定できる。墳丘の築成は榛名山二ツ岳火山灰堆積面まで削り出した後、盛土が施されている。主体部については不明である。（遺構の詳細については、文化財調査報告書第35集に掲載）

3　出土埴輪

調査が行われた3つの古墳からは、多数の埴輪が出土した。特に最大規模を有する1号墳では各種の形象埴輪も確認された。

図2の埴輪のうち、1～9は1号墳、10は3号墳、11・12は4号墳から出土した。

1は人物埴輪である。頭部から胸にかけての前面部が残る。残存高（頭頂部から胸部）は21cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。顔面部の眉の部分と、目の下から顎にかけて赤色塗彩が見られる。目と口は外側から内側に向かって穿孔されている。頸部にボタン状粘土を添付し首飾りを表現している。頭頂部が平らになっており、粘土の剥離した痕跡が見られる。耳の下部に2本の細い粘土紐が添付された様子が見られる。

2は人物の腰の部分である。残存高は14cm、胎土は中粒、焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。幅広の粘土紐を添付し帯を表現している。

3も人物の腰の部分で、帯と刀の一部分、服の裾部が残る。残存部分の最大高は14cm、胎土は中粒、焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。刀の断面形状は台形である。

4は人物の服の裾部である。残存部分の最大高は8cm、胎土は中粒、焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。

1～4は胎土・焼成・色調とも近似する。特に3と4は服の裾部の断面形状も酷似することから、同一個体の可能性が高い。

5・6は家形埴輪の下部と思われる。5・6とも胎土は中粒、焼成は良好、色調は浅黄色を呈する。外面に縦ハケが施される。同一個体か。

7は朝顔形円筒埴輪である。上部の2分の1ほどが残存し、残存高は17cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。外面に赤色塗彩が施される。外面には縦ハケが施され、その後突帯添付、口唇部に横ナデが行われている。内面には斜め方向にハケメが見られる。

8は円筒埴輪である。下部のみであるが、大きさから2条突帯になると思われ、残存高は27cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。透孔は現時点では1つしか確認できないが、2つあくものと考えられる。外面には縦ハケが施され、その後突帯が添付されている。突帯の断面形状は三角形で、つぶれている。

9も円筒埴輪である。8と同様、2条突帯になると思われ、残存高は28cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調は橙色を呈する。透孔が2つ見られる。外面には縦ハケが施され、その後突帯が添付されている。突帯の断面形状は台形を呈する。

10も円筒埴輪である。やはり下部のみの残存だが、2条突帯になると思われ、残存高は14cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色を呈する。外面には縦ハケが施され、その後突帯が添付されている。突帯の断面形状は台形に近い。

11も円筒埴輪である。口縁部から中程までが残り、残存高は21cmである。胎土は中粒、焼成は良好、色調は橙色を呈する。突帯が2条、透孔が2つ見られる。外面には縦ハケが施され、その後突帯添付、口唇部に横ナデが行われている。突帯の断面形状は台形に近い三角形を呈する。

12も円筒埴輪である。透孔の近くと底部が一部欠損するが、ほぼ完形である。器高は34cmを測る。胎土は中粒、焼成は良好、色調はにぶい橙色を呈する。透孔は2カ所見られる。外面には縦ハケが施され、その後突帯添付、口唇部に横ナデが行われている。突帯の断面形状は台形を呈する。内面には透孔のあたりまで斜め方向のハケメが施される。

これらの埴輪は、円筒埴輪の突帯が比較的しっかりしているなどの特徴から、6世紀前半のものと考えられる。

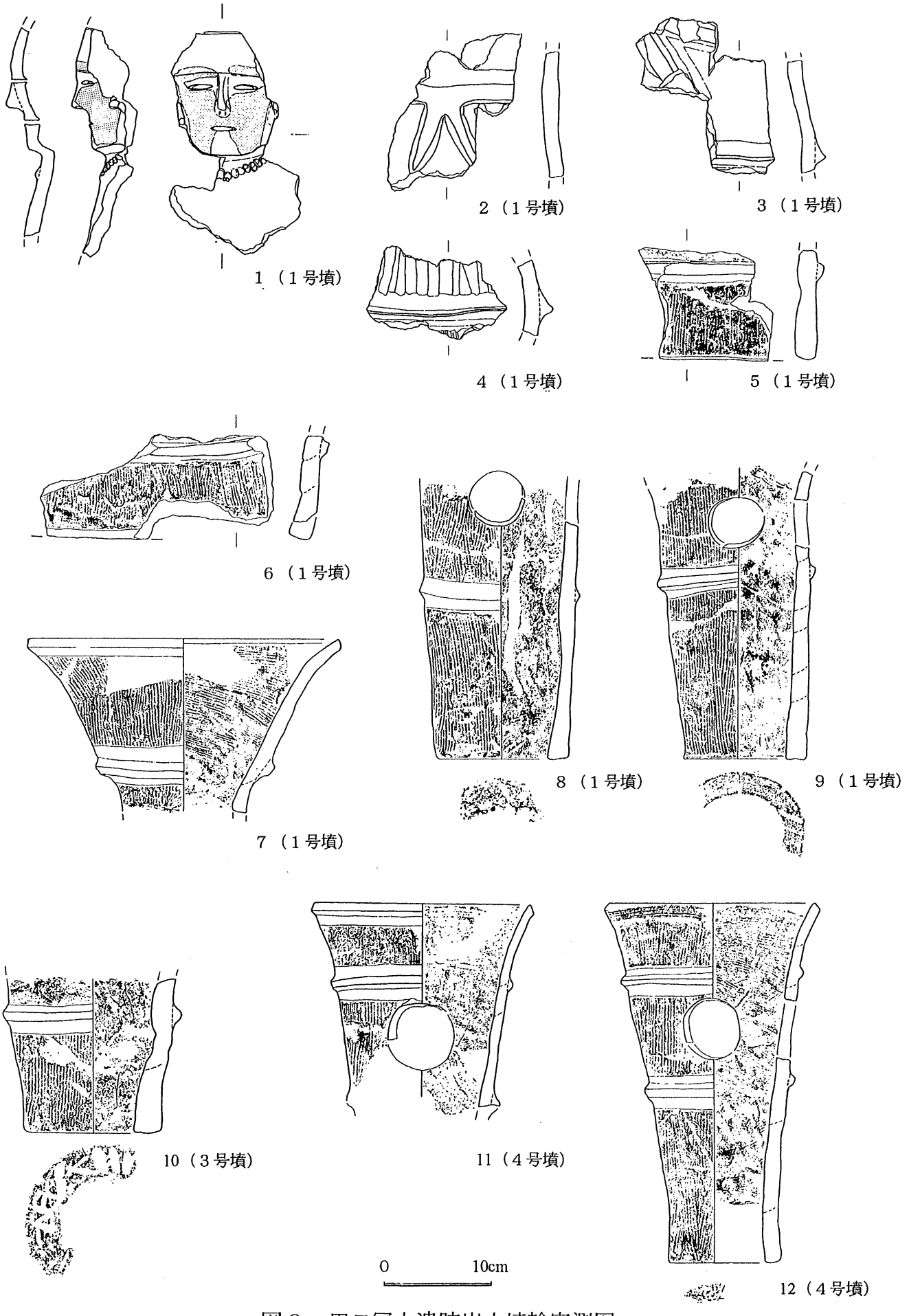
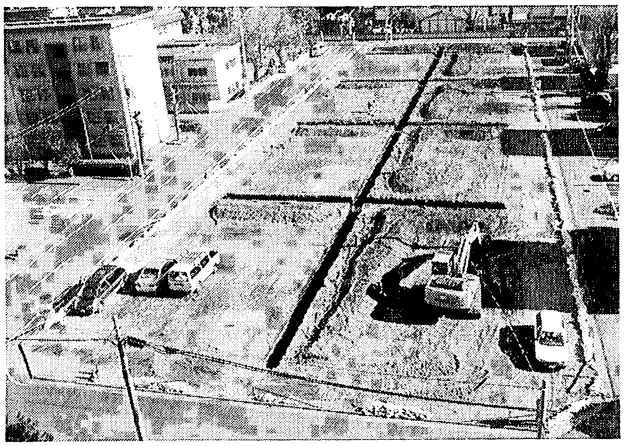


図２　田口冠木遺跡出土埴輪実測図

5　市内遺跡発掘調査事業

三俣城之内遺跡



広瀬木ノ宮遺跡

平成 17 年度の市内遺跡発掘調査等事業では、52 件の試掘・確認調査を実施、そのうち、29 件で遺構や遺物を確認した。調査依頼者としては、公共機関 11 件、民間開発 41 件であった。事業の目的は、開発に対して埋蔵文化財の保存を図るためのものであるが、遺構確認面や開発内容からやむなく記録調査を３件（六供遺跡群、天神風呂遺跡、元総社弥勒遺跡）行った。

また、市町村合併により、調査範囲が拡大したこともあり、事務の改善を行った。開発の情報を詳しく正確に収集するため、文書による照会回答を始めた。公共及び民間を含め、年間 1654 件の照会を受けた。事務の負担は増加したが、開発内容の早期収集及び迅速な対応が可能となり、行政サービスの拡大が図れた。

（1）事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及びそれ以外であっても規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施する。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に開発者と埋蔵文化財の保存協議を行う。

（2）事業の内容

①調査方法

開発地内に調査トレンチを設定し、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の 10%程度を基本に調査をした。

②記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

（3）調査結果

調査を行った結果、29 件で埋蔵文化財が確認された。そのうち９件が新たに包蔵地に範囲を設定し、３件が範囲の変更拡大を行った。

①遺跡の時代と種類

縄文時代、古墳から平安時代の集落跡、平安時代の水田跡、古墳の周堀を確認した。

②新たに発見された主な遺跡

- 六供遺跡群（古墳時代集落跡・平安時代の水田跡：開発原因は区画整理事業により、平成 16 年度本調査を行う。）
- 稲荷新田薬師廻遺跡（平安時代の水田跡：開発原因は宅地造成で開発者と協議、遺跡の保存をする。）
- 三俣城之内遺跡（奈良・平安時代の住居跡：開発原因は宅地造成で、中世以前の遺跡が見つかっていなかった区域で、奈良・平安時代の遺跡を検出する。）
- 元総社西川遺跡（古墳・奈良・平安時代の包含層：盛土造成工事に伴う試掘調査を行い、遺物を収集する。）
- 江木吹地遺跡（古墳・奈良・平安時代の住居跡：女堀隣接地で掘削を伴う造成工事が計画され、事前に調査をした結果検出。）
- 荻窪堂ノ池遺跡（古墳・平安時代の住居跡：公園整備に先立ち調査をした結果、遺構を検出。）
- 箱田町水田遺跡（平安時代の水田跡：集合住宅建設の前に試掘調査を行い遺構を確認、周辺の状況とあわせ、包蔵地の設定を行う。）
- 広瀬木ノ宮遺跡（平安時代の住居跡等：市営住宅建設に伴う事前調査、平成 18 年度で建物部分を発掘調査。）

6　遺跡台帳整備事業

（1）報告書のＰＤＦファイル化

昨年度に引き続き、台帳整備の一環として、過去に前橋市教育委員会及び前橋市埋蔵文化財発掘調査団が刊行した調査報告書等のデジタル化処理業務を行った。本年度業務を行った報告書等は以下のとおりである。

○　大室古墳群　史跡保存整備事業報告書
○　前二子古墳
○　中二子古墳
○　後二子古墳・小二子古墳
○　小二子古墳
○　大室古墳群パンフレット
○　山王廃寺調査報告第２～７集
○　山王廃寺　山王廃寺等Ｖ遺跡発掘調査報告書
○　元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ
○　大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
○　文化財調査報告書第１～３１集

この業務を行ったことにより、保存の永続性・確実性を高めると共に、資料の再編集や情報通信網を経由した資料請求などにも対応可能となった。今後は埋蔵文化財調査の重要写真や図面についてもデジタル化を進めていきたい。

（2）遺跡分布調査

平成１５年度より開始した詳細遺跡分布調査の３年目にあたる。本年度は桂萱地区・永明地区を調査対象範囲とした。

調査にあたっては、年度当初から調査対象地の過去の遺跡発掘調査資料等を確認し、資料作成を行った。また、実際の調査用の下図作成・現地の下見を行い、現地踏査に備えた。さらに本年度は資料をデータベース化していく作業も開始した。

踏査の主な内容は、農閑期の田畑や空き地を作業員が実際に歩き、地表に点在する土器片や石器片を採集・記録するものである。

本年度は昨年度に比べ、調査対象面積が約３倍となったため、踏査開始日を例年より早めの１２月１日とした。また、調査員の人数も大幅に増やし、２月１５日をもって本年度の調査を終了することができた。

調査では、土地改良等の影響を受けたところでは芳しい成果が得られなかったが、かつて古墳があったと思われる土地では埴輪片を採取した。また、縄文土器がまとまった採取できたところもあった。

今回の調査によって得られた成果を今後整理・分析し、前橋市遺跡地図作製の基礎資料としていきたい。

7　埋蔵文化財資料整備事業

（1）普及パンフレットの作成

平成16年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を「前橋の遺跡　平成16年度版」として作成した。各遺跡の概要や特徴を分かり易くまとめ、「ミニ知識Ｑ＆Ａ」では用語の解説を行い、より身近な普及パンフレットになるように心がけた。成果品は、市内小中学校や地区公民館、市役所１階市民ロビーなどに配布、埋蔵文化財に対する啓発を進めた。

（2）公開展示

文化財保護課の玄関ロビーにおいて、平成16年度の発掘調査出土資料を中心に、展示を行った。縄文時代から平安時代にかけての遺物で種類もバラエティに富んだものとなった。この他に、写真やパネル等も併せて展示した。また、壁面に前橋の地図パネルを作成し発掘調査地点を表示した。

（3）資料の貸出

本年度の埋蔵文化財関係の資料・写真の貸出は 15 件、資料調査（見学）は 10 件だった。主な貸出資料・貸出先は以下のとおりである。

貸出資料名	貸出先	目的
柳久保遺跡縄文土器・市ノ関前田遺跡石器・大胡城土器類	群馬県立博物館	常設展示（毎年更新）
上ノ山遺跡石器・市ノ関前田遺跡石器	笠懸野岩宿文化資料館	常設展示（毎年更新）
五代伊勢宮遺跡縄文土器	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	企画展
膳城出土資料	笠懸野岩宿文化資料館	企画展
白藤古墳馬形埴輪	福島県立博物館	企画展

また、例年に引き続き、市内の小学校（二之宮小・荒子小・天川小）に文化財資料の貸出を行った。

8　山王廃寺等保存整備事業

（1）山王廃寺等調査委員会

山王廃寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された、山王廃寺等調査委員会（平成元12年度発足）において、山王廃寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施した。

第6回目になる今年度の委員会は平成18年1月25日に市庁舎11階南会議室で開催された。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。

《報告》

①新規委員等の委嘱について
②元総社蒼海遺跡群報告書の刊行について
③山王廃寺出土瓦について
④元総社蒼海遺跡群発掘調査について

《協議》　山王廃寺範囲内容確認調査

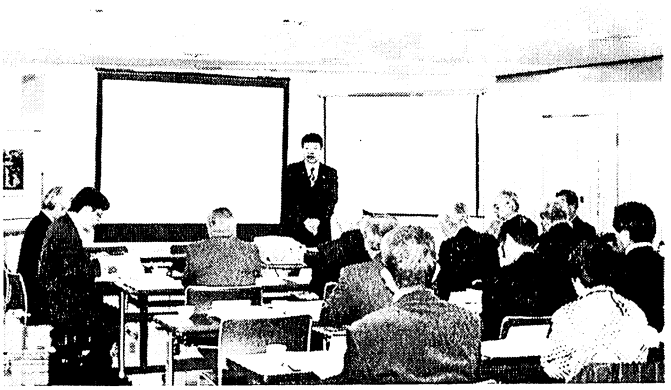
①全体計画について
②調査基準について
③18年度調査について

協議に関する主な意見としては、次のとおりである。

①「全体計画について」は、確認調査を来年度から５ケ年の継続事業として実施するが、次年度の計画は前年の成果を十分に検討して、最大限の成果を得られるようにしてほしい。

②「調査基準について」は、調査を進めていく上での基本的な約束事を定めたものなので、常に調査状況を踏まえ遺漏がないように進めてほしい。

③「18年度調査について」は、過去の調査成果を把握して、それを活かしながら調査にあたるとともに、常に地域との連携を図りながら調査を進めてほしい。



委員会の様子

（2）山王廃寺等調査委員会関係事業

①山王廃寺関係

・調査計画の修正
・「第二次～第七次調査報告書」のＰＤＦ化
・山王廃寺発掘調査出土瓦の分析

②区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

・元総社蒼海遺跡群（１）
・元総社蒼海遺跡群（２）
・元総社蒼海遺跡群（４）
・元総社蒼海遺跡群（５）
・元総社蒼海遺跡群（６）

③元総社公民館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

・元総社蒼海遺跡群（７）

あ と が き

今年、文化財保護課は、「もっとやさしく　もっと身近に」をモットーに市民サービス向上を心がけています。

文化財調査報告書は年度毎に展開している諸事業をまとめたものですが、もっとわかりやすい表題を考え、年報の文字を加えました。

本書には、平成17年度に展開された大胡長善寺、総社町立石の獅子舞等の文化財調査や、大室公園史跡整備が完成したことを踏まえてのイベント開催、範囲内容確認調査を協議した山王廃寺等調査委員会、更には国府に関連するとも考えられる大溝の検出等が報告されています。本書が多くの方々に読まれ、文化財保護行政をご理解頂くことを願っております。

平成１８年９月３０日

文化財保護課長　駒倉　秀一

平成17年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗 二
井 上　唯 雄
梅 澤　重 昭
松 島　榮 治

年報 第36集 平成17年度文化財調査報告書
平成18年9月発行
発行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町２－10－２

平成17年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	駒倉　秀一
○文化財保護係	
文化財保護係長	松村　親樹
副主幹	中嶋　茂樹
主　査	木暮　良久
〃	丸山　正家
主　任	髙橋　一彦
〃	岩﨑　琢郎
〃	馬場　　崇
〃	伊與久伸子
〃	近藤　　薫
○埋蔵文化財係	
埋蔵文化財係長	前原　　豊
副主幹	梅澤　克典
主　査	鈴木　雅浩
主　任	髙橋　　亨
〃	小嶋　　尚
〃	近藤　雅順
〃	大﨑　和久
〃	後藤　俊継
〃	須藤　健夫
〃	井上　　登
主　事	倉品　敦子
〃	高坂　麻子
〃	池田　史人
文化財整備指導員	前原　照子
嘱託員	綿貫　綾子
〃	遠藤たか美

表紙　　大室古墳群史跡整備完成記念公開行事
前二子古墳石室公開の様子